

令和3年度【令和2年度事業】

砥部町教育委員会点検評価報告書



四 国 砥 部
えひめ TOBE

令和3年9月

砥部町教育委員会

I 砥部町教育大綱

誇りある地域、そして住みたいと思う魅力的なまちづくりを進めるためには、人づくりが大切です。本町に暮らす住民が、まちの現在と未来を担う大切な「力」であり、教育はその「力」を育む最も重要な営みです。

砥部町では、「まちづくり」は「人づくり」であるという理念に基づき、本町に暮らす住民一人ひとりが様々な学習や活動、交流を通じてお互いの基本的人権を尊重し、互いに学び合い高め合うまちを目指し、平成 30 年度から 5 年間の教育行政の方向を示す『第 2 次砥部町教育大綱』を策定しています。

大綱では、分野別に目標を設定し、目標実現に向けた政策方針、主要施策を次のとおり定め、学校・家庭・地域の連携体制を構築し、地域の文化や歴史、施設、人材など、地域の資源を最大限に活用した、生涯にわたり学び続けることのできる学習環境の整備を進めます。



子ども・教育分野



目標 1.未来を担う子どもたちが、たくましく健やかに育まれるまちを実現します。

■政策 1 子育て家庭を支援し、子どもを産み育てやすいまちづくりを推進します。

子どもの健やかな成長を第一に考え、乳児保育、延長保育及び一時保育など、子育て支援事業の実施により、多様なニーズに対応できる保育サービスの充実を図り、子どもを産み育てやすい環境を整備します。

■政策 2 学校・家庭・地域が連携し、子どもの生きる力を育む環境づくりを推進します。

子どもたちが自らの力で未来へはばたくことができるよう、豊かな人間性や確かな学力、健やかな体などを育む教育を進めます。

主要施策

- ① 子どもを産み育てやすい環境整備
- ② 子どもの健やかな成長支援の充実
- ③ 生きる力を育む教育の推進
- ④ 教育力の向上
- ⑤ 安全・安心の充実した教育環境の整備



生涯学習分野



目標 2.身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。

■政策1 地域で学ぶ生涯学習環境の整備を推進します。

生涯にわたって学び自己啓発を続けようとする意識の高まりに応じて、学ぶことができる生涯学習推進体制の整備を推進します。

■政策2 多様な主体が活躍できる社会を推進します。

住民一人ひとりの人権が尊重され、差別のない誰もが暮らしやすい社会を実現するため、お互いの人権を尊重し、様々な人が地域で活躍できる地域づくりを目指します。

■政策3 郷土の歴史や伝統文化が受け継がれる環境づくりを推進します。

歴史及び文化を次世代に継承するため、伝統芸能や文化の保存、継承及び創造を図るとともに、本町が誇る文化財や歴史を積極的に発信し、文化的交流を進めます。

主要施策

- ① ニーズに合わせた学習機会の充実
- ② 活動の場づくりと担い手の充実
- ③ 互いの人権を尊重する社会の構築
- ④ 男女共同参画の推進
- ⑤ 文化財保護と継承
- ⑥ 文化財の活用
- ⑦ 地域伝統文化の継承



文化・スポーツ分野



目標 3.文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。

■政策1 文化・芸術を楽しむ機会の拡大を推進します。

住民主体の文化・芸術活動の活発化を一層促進するため、一流指導者の確保や、文化協会をはじめとする各種文化・芸術団体及び地域における指導者の育成を図ります。

■政策2 スポーツを楽しむための支援を推進します。

生涯スポーツの振興と競技スポーツの向上など、住民一人ひとりが豊かな人生を送れるよう、スポーツを楽しむ機会の充実を図ります。

主要施策

- ① 文化・芸術活動への参加促進
- ② 文化・芸術活動を通じた交流の推進
- ③ ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- ④ 地域における指導者の確保及び育成
- ⑤ スポーツを通じた交流の拡大

II 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 趣旨

砥部町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理・執行状況について、毎年、点検・評価を行い、報告書を作成しています。

点検・評価の実施により、効果的・効率的な教育行政の推進を図り、変化する社会経済情勢に適確に対応するとともに、職員の意識改革の向上を図ります。

なお、点検・評価の実施にあたり、外部の学識経験者の知見を活用するとともに、報告書を議会に提出、公表することにより、町民への説明責任を果たし、信頼関係を確保することとしています。

≪地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）≫

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

令和 2 年度の事務事業を対象とし、大きく次の 2 区分とします。

(1) 教育委員が直接に関与している事業、或いは活動している事業を「教育委員会の活動状況」とします。

(2) 教育委員会が管理・執行している事務事業及び教育長に委任している事務を「教育委員会における事務の管理・執行状況」とします。

なお、「教育委員会における事務の管理・執行状況」は、令和 2 年度の事務事業を点検・評価したもので、「砥部町教育大綱」に掲げる主要施策ごとに分類しています。

3 点検・評価の方法

(1) 教育委員会による点検・評価

対象となる事業の実施状況、成果、課題等をまとめ、その妥当性、有効性及び効率性を総合的に判断し、事業の評価及び次年度以降の方向性について、次のとおり自己評価を行いました。

評価	S	目標とする成果を大きく上回った。
	A	目標とする成果をやや上回った。
	B	概ね目標とする成果であった。
	C	目標とする成果をやや下回った。
	D	目標とする成果を大きく下回った。

方向性	拡大	施策上の必要性や住民ニーズにより、さらに拡大・充実を図るもの
	維持	現状どおり事業を継続させることが妥当なもの
	改善	実施方法・内容などを見直して事業成果の向上を図るもの
	縮小	サービスの供給又は費用が課題となっており、適正化を図るもの
	廃止	施策上の必要性や住民ニーズが減少し、廃止が妥当なもの

(2) 外部有識者による点検・評価

自己評価実施後、その客観性を確保するために、教育に関し学識経験を有する金井宏之氏（元余土小学校長）に、主要施策別にご意見をいただきました。

Ⅲ 教育委員会の活動

1 教育委員会の構成

教育委員会は、人格が温厚誠実で、学校、生涯学習及び文化等の教育に関し識見を有するもののうち、町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4人の教育委員により構成されています。

砥部町教育委員会委員(令和3年3月31日現在)

職 名	氏 名	任 期	期 数
教育長	大江 章吾	令和2年2月17日就任 令和5年2月16日満了	1期
委 員 (教育長職務代理者)	廣瀬 美和子	平成31年2月17日就任 令和5年2月16日満了	3期
委 員	丸本 正和	令和3年2月17日就任 令和7年2月16日満了	2期
委 員	篠原 弘康	平成30年2月17日就任 令和4年2月16日満了	1期
委 員	大西 三千枝	令和2年2月17日就任 令和6年2月16日満了	1期

2 教育委員会会議の運営状況

教育委員会会議（定例会、臨時会）の令和2年度における運営状況は次のとおりです。

(1) 開催回数 19回（定例会12回/臨時会7回）

(2) 議案件数 57件

開催日	種別	審議された議案等	
4月6日	臨時	協議	・小学校・中学校の学校再開について（新型コロナウイルス感染症関連） ・小学校・中学校の入学式・始業式について（新型コロナウイルス感染症関連）

4月24日	定例	議案	・令和2年度砥部町家庭教育支援員の委嘱について ・令和2年度教育費一般会計補正予算について ・砥部町学校事務の共同実施組織及び運営に関する規則の一部改正について ・令和2年度砥部町教育支援委員会委員の委嘱について ・令和2年度砥部町特別支援連携協議会委員の委嘱について ・令和2年度準要保護児童生徒の認定について
		協議	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について
4月30日	臨時	議案	・令和2年度教育費一般会計補正予算について ・砥部町社会教育委員兼砥部町公民館運営審議会委員の委嘱について
		協議	・小学校・中学校の再開について（新型コロナウイルス感染症関連） ・幼稚園・保育所等の再開について（新型コロナウイルス感染症関連） ・山村留学センターの取扱いについて
5月7日	臨時	協議	・小学校・中学校の再開について（新型コロナウイルス感染症関連） ・幼稚園・保育所等の再開について（新型コロナウイルス感染症関連） ・山村留学センターの取扱いについて
5月25日	定例	議案	・坂村真民記念館運営協議会における公募委員の選考に関する要領の一部改正について ・令和2年度砥部町内小・中学校及び幼稚園評議員の委嘱について ・令和2年度砥部町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
		協議	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について
6月25日	定例	議案	・砥部町公立学校管理規則の一部改正について ・令和2年度砥部町学力向上推進委員会委員の委嘱について
		協議	・令和2年度【令和元年度事業】砥部町教育委員会点検評価報告書(案)について ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について
7月27日	定例	議案	・令和2年度教育費一般会計補正予算について ・教科用図書の採択に関する規程の一部改正について ・令和2年度砥部町修学旅行予約変更料支援事業交付金交付要綱の制定について

			・令和２年度（令和元年度事業）砥部町教育委員会点検評価報告書について ・坂村真民記念館運営協議会委員の委嘱について
		協議	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について
８月２６日	臨時	議案	・令和３年度使用中学校教科用図書の採択について
８月２６日	定例	議案	・令和２年度（令和元年度事業）砥部町教育委員会点検評価報告書について ・砥部町子ども読書活動推進会議設置要綱の制定について ・砥部町子ども読書活動推進会議構成員の委嘱について ・令和２年度砥部町山村留学センター運営協議会委員の委嘱について
		協議	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について
９月２５日	定例	議案	・令和２年度砥部町学校臨時休業対策費補助金交付要綱の制定について ・令和２年度砥部町学校歯科医の委嘱について
		協議	・砥部町誌編さん基本方針（素案）について ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について
１０月１日	臨時	議案	・教職員の懲戒処分について
１０月１５日	臨時	議案	・教職員の非違行為に係る管理監督者への矯正措置について
１０月２６日	定例	議案	・令和２年度教育費一般会計補正予算について
１１月２５日	定例	議案	・令和３年度教育費一般会計予算について ・砥部町特別支援教育巡回相談実施要綱の一部改正について ・文化財保護審議会への諮問について ・令和２年度準要保護児童生徒の認定について
１２月２４日	定例	議案	・砥部町執行機関の附属機関設置条例の一部改正について
１月２５日	定例	議案	・令和２年度教育費一般会計補正予算について ・砥部町立社会体育施設条例の一部改正について ・砥部町執行機関の附属機関設置条例の一部改正について ・砥部町いじめ問題再調査委員会規則の制定について ・砥部町誌編さん委員会規則の制定について ・砥部町教育委員会会議規則の一部改正について
２月２５日	定例	議案	・令和３年度砥部町中学生英語検定料補助金交付要綱の制定について ・砥部町奨学資金奨学生選考委員会委員の委嘱について ・令和３年度砥部町学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱に

			ついて ・令和3年度砥部町特別支援教育巡回相談員の委嘱について ・砥部町指定無形文化財保持者の認定について
		協議	・令和3年度砥部町教育方針について
3月9日	臨時	議案	・令和3年度教職員人事異動原案について
		協議	・令和3年度砥部町教育方針（案）について
3月26日	定例	議案	・令和3年度砥部町教育基本方針について ・砥部町教育委員会事務局組織規則の一部改正について ・砥部町公立学校管理規則の一部改正について ・砥部町公民館条例施行規則の一部改正について ・砥部町大南町民広場等管理規則及び砥部町立学校施設利用条例施行規則の一部改正について ・砥部町教育委員会公印規程の一部改正について ・砥部町就学援助事業実施要綱の廃止について ・砥部町就学援助事業実施要綱の制定について ・砥部町特別支援教育就学奨励事業実施要綱の一部改正について ・令和3年度砥部町家庭教育支援事業実施要綱の制定について ・令和3年度砥部町スクールガード・リーダーの委嘱について ・砥部町文化財保護審議会委員の委嘱について ・令和3年度準要保護児童生徒の認定について

(3) 傍聴人 9人（累計）

3 学校・幼稚園訪問

(1) 学校訪問

各学校の教育方針や学校経営の実情をもとに、学校教育推進上の諸問題について話し合い、これからの学校教育の推進を図るため、学校施設の状況視察及び全ての教諭の授業を参観しました。

【訪問内容】

- ① 教育方針及び学校教育推進に伴う課題・問題（施設の管理・危機管理・サービスなど）について、説明を受け協議しました。
- ② 具体的な教育活動（児童生徒指導の実情と問題点）や特色ある教育活動などについて協議しました。

(2) 幼稚園（こども園）訪問

幼稚園やこども園の運営を協議するため、施設訪問を実施しました。

訪問日	施設名	訪問日	施設名
6月23日	麻生小学校	6月24日	広田小学校
6月29日	砥部中学校	6月30日	宮内小学校
7月1日	砥部小学校	11月2日	幼稚園（こども園）

4 その他の活動状況

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予定していた小・中学校や町関係行事は中止及び規模を縮小した開催となり、活動は制限されました。

開催日	行事名等
9月17日	・老人クラブ大会【町文化会館】
9月20日	・砥部中学校運動会
9月27日	・町内小学校運動会
10月3日	・砥部こども園運動会
10月4日	・麻生・宮内幼稚園運動会
10月5日	・砥部町小学校陸上競技記録会【ニンジニアスタジアム】
10月11日	・スポーツまつり in とべ 2020【陶街道ゆとり公園】
12月24日	・砥部町総合教育会議【庁舎】
3月17日	・砥部中学校卒業式
3月19日	・幼稚園・こども園卒園式
3月24日	・砥部地域小学校卒業式
3月25日	・広田小学校卒業式 ・山村留学センター退所式
3月29日	・教職員離任式【中央公民館】

IV 教育委員会における事務の管理・執行状況

目 次

注 1) 評価欄には、各施策別評価の「自己評価」を掲載しています。

施策	No.	評価対象事業名	担当係	評価	方向性	頁
【目標】未来を担う子どもたちが、たくましく健やかに育まれるまちを実現します。						
【主要施策】子どもを産み育てやすい環境整備						
	1	就学援助事業	学校教育係	A	維持	13
	2	教育活動支援事業	学校教育係	B	維持	14
	3	奨学資金貸与事業	総務係	B	維持	15
	4	幼児教育推進事業	保育幼稚園係	B	維持	16
【主要施策】子どもの健やかな成長支援の充実						
	5	保健対策事業	学校教育係	B	維持	17
	6	特別支援教育推進事業	学校教育係	B	維持	18
	7	運動・体力向上推進事業	学校教育係	B	維持	19
	8	地域の特性を生かす教育推進事業	学校教育係	B	維持	20
【主要施策】生きる力を育む教育の推進						
	9	キャリア教育推進事業	学校教育係	B	維持	21
	10	学校給食運営事業	給食センター係	B	維持	22
【主要施策】教育力の向上						
	11	校務支援・業務改善事業	総務係	B	維持	23
	12	教職員研修事業	総務係	C	維持	24
	13	学力向上推進事業	学校教育係	B	維持	25
	14	情報教育推進事業	学校教育係	B	拡大	26
	15	外国語教育推進事業	学校教育係	B	維持	27
	16	いじめ・不登校等対策事業	学校教育係	B	維持	28
	17	山村留学センター運営事業	総務係	B	維持	29
	18	学校間連携推進事業	総務係	B	維持	30
【主要施策】安全・安心の充実した教育環境の整備						
	19	学校施設整備・維持管理	総務係	A	維持	31
	20	小学校空調整備工事	総務係	B	廃止	32
	21	小学校校舎等大規模改修工事	総務係	B	維持	33
	22	学校安全対策事業	総務係	B	維持	34
	23	新型コロナウイルス感染症対策事業	総務係	B	維持	35・36

施策	No.	評価対象事業名	担当係	評価	方向性	頁
【目標】身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。						
【主要施策】ニーズに合わせた学習機会の充実						
	24	社会教育推進事業	社会教育係	B	維持	37
	25	公民館活動事業	公民館係	B	改善	38
【主要施策】活動の場づくりと担い手の充実						
	26	文化会館・図書館管理運営	文化スポーツ係	B	維持	39
	27	公民館施設管理	公民館係	B	維持	40
	28	青少年育成事業	社会教育係	B	拡大	41
【主要施策】互いの人権を尊重する社会の構築						
	29	人権教育・人権対策推進事業	社会教育係	B	維持	42
【主要施策】男女共同参画の推進						
	30	女性団体育成支援事業	社会教育係	C	拡大	43
【主要施策】文化財保護と継承						
	31	文化財保護事業	文化スポーツ係	B	維持	44
【主要施策】文化財の活用						
	32	文化財の活用	文化スポーツ係	B	拡大	45
	33	坂村真民記念館	文化スポーツ係	B	改善	46
【主要施策】地域伝統文化の継承						
	34	伝統芸能保存伝承事業	文化スポーツ係	C	改善	47
【目標】文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。						
【主要施策】文化・芸術活動への参加促進						
	35	文化行政推進事業	文化スポーツ係	B	維持	48
【主要施策】文化・芸術活動を通じた交流の推進						
	36	芸能発表会等	公民館係	B	維持	49
【主要施策】ライフステージに応じたスポーツ活動の推進						
	37	社会体育推進事業	文化スポーツ係	B	維持	50
	38	体育施設管理	文化スポーツ係	B	維持	51
【主要施策】地域における指導者の確保及び育成						
	39	スポーツ指導者確保及び育成	文化スポーツ係	B	維持	52
【主要施策】スポーツを通じた交流の拡大						
	40	スポーツ・レクリエーション推進事業	文化スポーツ係	B	維持	53

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係																															
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																																			
主要施策	子どもを産み育てやすい環境整備																																			
事業No.	1	事業名	就学援助事業		決算額	18,914,597円																														
事業目的	経済的な事由により就学困難な児童生徒の保護者に対し、就学に必要な経費を助成し、負担軽減を図る。																																			
事業概要及び成果	1 要保護・準要保護児童生徒援助事業																																			
	■ 支給総額 14,405,295円（小学校：6,974,398円 中学校：7,430,897円）																																			
	■ 対象者数																																			
	<table><tr><td>種別</td><td>年度</td><td>全児童等数</td><td>要保護</td><td>準要保護</td></tr><tr><td rowspan="3">小学校</td><td>2年度</td><td>1,053人</td><td>4人</td><td>101人</td></tr><tr><td>元年度</td><td>1,096人</td><td>6人</td><td>112人</td></tr><tr><td>30年度</td><td>1,142人</td><td>4人</td><td>110人</td></tr><tr><td rowspan="3">中学校</td><td>2年度</td><td>604人</td><td>4人</td><td>67人</td></tr><tr><td>元年度</td><td>572人</td><td>4人</td><td>67人</td></tr><tr><td>30年度</td><td>565人</td><td>2人</td><td>66人</td></tr></table>					種別	年度	全児童等数	要保護	準要保護	小学校	2年度	1,053人	4人	101人	元年度	1,096人	6人	112人	30年度	1,142人	4人	110人	中学校	2年度	604人	4人	67人	元年度	572人	4人	67人	30年度	565人	2人	66人
	種別	年度	全児童等数	要保護	準要保護																															
	小学校	2年度	1,053人	4人	101人																															
		元年度	1,096人	6人	112人																															
		30年度	1,142人	4人	110人																															
	中学校	2年度	604人	4人	67人																															
		元年度	572人	4人	67人																															
30年度		565人	2人	66人																																
■ 補助対象品目：学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費、通学費、体育実技用具費、学校給食費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費、卒業アルバム代																																				
2 特別支援教育就学奨励事業																																				
■ 支給総額 832,704円（小学校：564,207円 中学校：268,497円）																																				
■ 対象者数等（特別支援学級在籍児童生徒）小学校：18人 中学校：4人																																				
3 臨時休業対策昼食費支援事業費																																				
■ 対象期間：令和2年3月～5月																																				
支給総額 1,776,598円（小学校：1,034,633円 中学校：741,965円）																																				
4 就学援助特別交付金事業																																				
■ 支給総額 1,900,000円（小学校：1,160,000円 中学校：740,000円）																																				
■ 就学援助特別交付金（家庭学習教材費等支援1人1万円：要保護、準要保護、特別支援教育就学奨励者190人）																																				
事業評価	入学説明会及び事業説明文書の配布により全保護者に事業を周知したことにより、就学援助を必要とする家庭を適切に援助した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新たな補助制度を設けて臨時休業となった期間の給食代や学習教材の保護者の負担軽減を図る等、更なる就学援助の充実を図ったことにより目標とする成果をやや上回った。																																			
課題	・ 更に掘り下げた制度理解の啓発 ・ 年間を通じた継続的な周知				評価	A																														
					方向性	維持																														

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係																												
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																																
主要施策	子どもを産み育てやすい環境整備																																
事業No.	2	事業名	教育活動支援事業	決算額	4,136,091円																												
事業目的	小中学校が校外で実施する各種教育活動に要する経費に対し、補助金を交付し、もって砥部町の教育振興、心豊かで潤いのある充実した生活の創造を図る。																																
事業概要及び成果	1 少年自然の家利用助成事業 集団宿泊活動の実施により、学年間の結束が強まり、児童生徒の豊かな人間性の育成に寄与するとともに、当該経費を支援することにより参加しやすい環境を整え175人（97.2％）の児童が参加した。 ■ 実施場所 大三島少年自然の家（小学校） ※新型コロナウイルス感染症防止のため、砥部中学校は中止																																
	<table><tr><td>種別</td><td>年度</td><td>一般</td><td>要・準要保護</td><td>特支奨励対象</td><td>補助金額</td></tr><tr><td rowspan="2">小学校</td><td>2年度</td><td>154人</td><td>20人</td><td>1人</td><td>785,955円</td></tr><tr><td>元年度</td><td>162人</td><td>19人</td><td>4人</td><td>844,177円</td></tr><tr><td rowspan="2">中学校</td><td>2年度</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>元年度</td><td>180人</td><td>19人</td><td>3人</td><td>430,041円</td></tr></table>					種別	年度	一般	要・準要保護	特支奨励対象	補助金額	小学校	2年度	154人	20人	1人	785,955円	元年度	162人	19人	4人	844,177円	中学校	2年度	－	－	－	－	元年度	180人	19人	3人	430,041円
	種別	年度	一般	要・準要保護	特支奨励対象	補助金額																											
	小学校	2年度	154人	20人	1人	785,955円																											
		元年度	162人	19人	4人	844,177円																											
	中学校	2年度	－	－	－	－																											
		元年度	180人	19人	3人	430,041円																											
	※小学校は第5学年、中学校は第1学年で実施。																																
	2 選手派遣費交付事業 県内各地で実施される総合体育大会、新人体育大会等への旅費に対する補助金交付により参加しやすい環境を整え、415人の生徒が参加した。 宮崎県で開催された、全日本アンサンブルコンテストに砥部中学校の打楽器六重奏が出場し銀賞を受賞した。																																
	<table><tr><td>大会名</td><td>補助金額</td><td>備考</td></tr><tr><td>中学校総合体育大会</td><td>464,200円</td><td>地区大会 89人</td></tr><tr><td>中学校新人体育大会</td><td>969,560円</td><td>地区大会 230人、県大会 64人</td></tr><tr><td>全日本アンサンブルコンテスト</td><td>1,916,376円</td><td>四国大会 21人、全国大会 11人</td></tr></table>					大会名	補助金額	備考	中学校総合体育大会	464,200円	地区大会 89人	中学校新人体育大会	969,560円	地区大会 230人、県大会 64人	全日本アンサンブルコンテスト	1,916,376円	四国大会 21人、全国大会 11人																
大会名	補助金額	備考																															
中学校総合体育大会	464,200円	地区大会 89人																															
中学校新人体育大会	969,560円	地区大会 230人、県大会 64人																															
全日本アンサンブルコンテスト	1,916,376円	四国大会 21人、全国大会 11人																															
事業評価 小学校の集団学習活動は175人の児童が参加し、中学校の総合体育大会、新人大大会等は415人の生徒が参加した。当該活動の参加に必要な経費を支援することにより、児童生徒が参加しやすい環境を維持するなど、概ね目標とする成果であった。																																	
課題	・新型コロナウイルス感染症への対策に十分留意しながら、実施時期の精査及び創意工夫した運用			評価	B																												
				方向性	維持																												

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	学校教育課	担当係	総務係
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。			
主要施策	子どもを産み育てやすい環境整備			

事業No.	3	事業名	奨学資金貸与事業		決算額	793円												
事業目的	経済的理由により有用な人材で、就学が困難な者の就学の機会を確保する。																	
事業概要及び成果	次に掲げる要件を備え、砥部町奨学資金奨学生選考委員会で採用された者に対し、奨学金を貸与した。																	
	(1) 学校教育法に規定する高等学校又は高等専門学校第3学年までに在学する者																	
	(2) 学業・人物ともに優れ、かつ、健康な者																	
	(3) 学資の支弁が困難であると認められる者																	
	(4) 保護者が砥部町に居住する者																	
	(5) 未成年者																	
	1 奨学金貸与事業																	
	■ 貸与実績（2年度）																	
	<table><tr><td>区分</td><td>貸与人数</td><td>貸与月額</td><td>貸与年額</td></tr><tr><td>公立</td><td>4人</td><td>20,000円</td><td>960,000円</td></tr><tr><td>私立</td><td>3人</td><td>25,000円</td><td>900,000円</td></tr></table>						区分	貸与人数	貸与月額	貸与年額	公立	4人	20,000円	960,000円	私立	3人	25,000円	900,000円
	区分	貸与人数	貸与月額	貸与年額														
公立	4人	20,000円	960,000円															
私立	3人	25,000円	900,000円															
2 償還管理・基金管理																		
■ 償還実績（2年度）																		
<table><tr><td>償還者数</td><td>償還額</td></tr><tr><td>20人</td><td>1,392,000円</td></tr></table>						償還者数	償還額	20人	1,392,000円									
償還者数	償還額																	
20人	1,392,000円																	
■ 基金運用状況																		
期 首 30,816,555円 （通帳残高 18,742,055円 未償還額 12,074,500円）																		
貸与金 1,860,000円																		
償還金 1,392,000円																		
利 息 793円																		
期 末 30,817,348円 （通帳残高 18,274,848円 未償還額 12,542,500円）																		
事業評価	7人の申請に対し、7人の決定を行った。また償還管理について予定どおり実施することができ、概ね目標とする成果であった。																	
課題	・最大4ヶ月分を滞納する者が発生しているため、滞納者との連絡を密にした滞納の早期解消 ・償還状況を全貸与者に周知するため、新たに年1回の償還通知を送付				評価	B												
					方向性	維持												

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	子育て支援課	担当係	保育幼稚園係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。					
主要施策	子どもを産み育てやすい環境整備					
事業No.	4	事業名	幼児教育推進事業		決算額	69,121,117円
事業目的	町立幼稚園において、義務教育及びその後の教育の基礎を培い、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えてその心身の発達の助長を図る。					
事業概要及び成果	心豊かで、たくましい砥部の子どもを育てることを目標に、楽しい遊びや仲間づくりを通して豊かな人間性の芽生えを培う教育を実践した。また、新型コロナウイルス感染症拡大により、各種行事や交流活動にも制限が掛かる中、コロナ対策を実施しながら、健やかな成長を図るべく指導方法を工夫した幼児教育に取り組んだ。					
	1 預かり保育 14時以降 (単位：日、人)					
		実施日数	登録人数	延べ利用人数	1日当たりの利用人数	
	麻生幼稚園	223	16	1,069	5	
	宮内幼稚園	156	4	227	2	
	2 幼稚園の行事・園外保育					
	■ 運動会、発表会、七夕など季節に合わせた行事					
	■ 小学校との交流、ハートピアみなみとの交流（保育所との交流等は中止）					
	3 外国語や異文化に親しむ取り組み					
	■ ALTとの交流 5回実施					
■ 世界へ向かってとベキッズ 6回実施						
4 就学前教育						
■ えひめこどもスポーツITスタジアムへの参加（麻生）						
■ 人権教育への取り組み						
5 幼児教育研修会						
■ 幼稚園等新規採用教員研修 2名受講						
■ 幼稚園キャリアアップ研修 1名受講						
事業評価	新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、幼児が感染症を予防し新生活様式の習得ができるよう取り組めた。特に、体を接触する集団遊びを避けながら、体力づくりの取り組みとして、普段の運動遊びや、えひめこどもスポーツITスタジアムに参加する等、遊び方や指導方法を工夫することで、姿勢の維持やバランス力の向上につなげることができたため、概ね目標とする成果であった。					
課題	・新型コロナウイルス感染拡大等、特別な事態により保育に制限がかかる場合があっても、創意工夫により編成された教育課程の実施				評価	B
					方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係																
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																				
主要施策	子どもの健やかな成長支援の充実																				
事業No.	5	事業名	保健対策事業	決算額	7,700,715円																
事業目的	児童生徒及び教職員が、心身ともに健康で学校生活を送ることができるよう、病気等の早期発見・予防につなげる。																				
事業概要及び成果	1 児童生徒健康診断 学校保健安全法に基づき、定期健康診断、学校医による各種（内科・歯科・眼科・耳鼻咽喉科）検診を実施した。また、学校保健委員会を組織し、児童生徒の健康保持、増進を図った。 ■ 費用 学校医・学校薬剤師報酬 761,333円 出向料・技術料（検診） 2,151,700円 児童生徒健康診断委託料 2,613,518円 健康手帳印刷費 314,600円 伊予地区結核対策委員会 29,400円 学校保健消耗品費 4,840円 ■ 検査項目 尿、心電図、モアレ検査、小児生活習慣病予防健診、胸部X線検査、食事・生活調査																				
	2 教職員健康診断 ■ 費用 教職員健診委託料 1,724,974円 ストレスチェック委託料 64,350円 ■ 検査項目 健康診断、尿、心電図、血液、眼底、胃がん、大腸がん、ストレスチェック																				
	3 教室の開催 心身ともに健康で安全な生活態度や生活習慣の形成・確立を目指して、思春期教室を開催した。 ■ 講師 愛媛県立医療技術大学 准教授 中越利佳 ■ 開催内容																				
	<table><tr><td></td><td>実施日</td><td>演 題</td><td>参 加 者</td></tr><tr><td>宮内小学校</td><td>10月28日</td><td>「命の誕生」</td><td>5年生児童57人、教職員</td></tr><tr><td>広田小学校</td><td>10月30日</td><td>「思春期のこころと体」</td><td>5年生児童 9人、教職員</td></tr><tr><td>砥部小学校</td><td>11月2日</td><td>「思春期の心と体」</td><td>5年生児童48人、教職員</td></tr></table>						実施日	演 題	参 加 者	宮内小学校	10月28日	「命の誕生」	5年生児童57人、教職員	広田小学校	10月30日	「思春期のこころと体」	5年生児童 9人、教職員	砥部小学校	11月2日	「思春期の心と体」	5年生児童48人、教職員
		実施日	演 題	参 加 者																	
	宮内小学校	10月28日	「命の誕生」	5年生児童57人、教職員																	
	広田小学校	10月30日	「思春期のこころと体」	5年生児童 9人、教職員																	
	砥部小学校	11月2日	「思春期の心と体」	5年生児童48人、教職員																	
	■ 費用 思春期教室講師謝礼 36,000円(宮内・砥部・広田小学校)																				
事業評価	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ日程の変更を行う等、感染症対策を行いながら問題なく事業を実施し、概ね目標とする成果であった。																				
課題	・教職員の中に健康診断やストレスチェックを受けない者がいるため、受診勧奨による全ての教職員の受診			評価	B																
				方向性	維持																

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課		担当係	学校教育係																												
目標		未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																																
主要施策		子どもの健やかな成長支援の充実																																
事業No.		6	事業名		特別支援教育推進事業		決算額	28,960,966円																										
事業目的		支援を要する全ての幼児及び児童生徒が豊かに学校生活を送れるように具体的な支援を行なう。																																
事業概要及び成果	1 教育支援委員会 就学支援委員会を開催し、特別支援学級への入級、学校生活支援員配置、通級指導の可否等の就学に必要な事項を審議した。（書面会議等含む） ■ 開催回数 4回 ■ 審議対象者数 61人 ■ 費用 委員報酬 42,000円 ■ 教育相談開催回数 2回 ■ 相談者数 52人 ■ 費用 相談員謝礼等 84,293円																																	
	2 巡回相談 特別支援教育士等による巡回相談を実施し、学校等における日常の授業等を観察して、発達の遅れやその心配のある対象者への効果的な支援及び指導の在り方についてアドバイスした。 ■ 巡回相談員派遣日数 24日 ■ 対象者数 83人 ■ 費用 相談員謝礼 246,000円																																	
	3 特別支援連携協議会 特別支援連携協議会を開催し、関係機関の連携、研修会の実施による教職員の資質向上、保護者理解の促進を図った。 ■ 開催回数 2回（書面） ■ 費用 委員謝礼 0円																																	
	4 学校生活支援員配置 ※（ ）は対象児童生徒数																																	
	<table><tr><td>年度</td><td colspan="2">幼稚園</td><td colspan="2">小学校</td><td colspan="2">中学校</td><td colspan="2">合計</td></tr><tr><td>2年度</td><td>1人</td><td>(2人)</td><td>21人</td><td>(29人)</td><td>1人</td><td>(1人)</td><td>23人</td><td>(32人)</td></tr><tr><td>元年度</td><td>1人</td><td>(2人)</td><td>28人</td><td>(55人)</td><td>1人</td><td>(1人)</td><td>30人</td><td>(58人)</td></tr></table> ■ 費用 支援員賃金 28,588,673円								年度	幼稚園		小学校		中学校		合計		2年度	1人	(2人)	21人	(29人)	1人	(1人)	23人	(32人)	元年度	1人	(2人)	28人	(55人)	1人	(1人)	30人
年度	幼稚園		小学校		中学校		合計																											
2年度	1人	(2人)	21人	(29人)	1人	(1人)	23人	(32人)																										
元年度	1人	(2人)	28人	(55人)	1人	(1人)	30人	(58人)																										
事業評価	特別な支援が必要と思われる児童生徒等について現状を把握するとともに有識者等の意見を聴き、当該児童生徒の状態に応じた支援を行った。 また、学校生活支援員の配置に関しては、配置が必要な児童生徒等に対して希望どおり配置し安全かつ安心して学校生活をおくるサポートができたことなど、概ね目標とする成果であった。																																	
課題	・医療的ケアが必要な児童・生徒に対応するための看護師資格を持つ学校生活支援員の確保						評価	B																										
							方向性	維持																										

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。					
主要施策	子どもの健やかな成長支援の充実					
事業No.	7	事業名	運動・体力向上推進事業		決算額 198,937円	
事業目的	子どもの心身の健康や体力の向上を図り、楽しさや喜びを味わうことのできる体育の授業やクラブ活動、運動部活動の充実を図る。					
事業概要及び成果	1 小学校水泳大会(中止)、陸上競技大会 (1) 陸上競技大会(6年生) 日時:10月5日 場所:ニンジニアスタジアム ■ 標準記録突破者数 16人 ■ 費用 132,107円(記念品(メダル)、消耗品、会場使用料、自動車借上料) (2) 上位大会の結果 ■ 費用 66,830円 ■ 伊予地区陸上大会入賞者:17人リレー入賞:4チーム ■ 県陸上大会(伊予地区4位以上)出場者:13人リレー:1チーム					
	2 中学校運動部活動 ■ 運動部数(部員数)17部(393人 男子:212人/女子:181人) ■ 種別:軟式野球、ソフトボール、ソフトテニス、バスケットボール、バレーボール、卓球、剣道、柔道、陸上競技、バドミントン ■ 砥部町立中学校における運動部活動の方針 生徒及び教職員双方の負担を考慮し、持続可能な運動部活動の方針を示した。 休養日:平日週1日、土日曜1日以上 活動時間:平日2時間、休業日3時間程度					
事業評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、水泳大会は中止となった。陸上競技大会は縮小して実施したが、リレーで伊予地区大会、県大会に出場した。 また、中学校の運動部活動については、教員及び生徒の負担軽減を図るため計画的に活動を行うなど、概ね目標とする成果であった。					
課題	・令和元年度に実施した、全国体力・運動能力・運動習慣等調査(小学5年生と中学2年生)の結果、全国平均を下回っているため、子どもの運動習慣の定着につなげる取組【令和2年度はコロナ禍で未実施】				評価	B
					方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係											
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。															
主要施策	子どもの健やかな成長支援の充実															
事業No.	8	事業名	地域の特性を生かす教育推進事業	決算額	950,000円											
事業目的	自然、歴史、文化などの地域の特性を生かした特色ある教育活動を推進し、心豊かで潤いのある充実した生活の創造を図る。															
事業概要及び成果	小・中学校の個性ある取組みを円滑かつ効果的に実施するため、交付金を交付した。															
	1 交付対象活動															
	■ 地域の歴史、文化、自然を生かす活動															
	■ 地域に根ざした勤労、奉仕を体験する活動															
	■ 交流の輪を広げる活動															
	■ 学校、地域の伝統を築く活動															
	■ その他学校、地域の特性を生かす活動															
	2 交付額															
	■ 砥部地域小学校 各200,000円															
	■ 広田小学校 100,000円															
	■ 砥部中学校 250,000円															
	3 学校別事業内容															
	<table><tr><td>校名</td><td>内容</td></tr><tr><td>麻生小</td><td>環境学習、校区探検、福祉学習、砥部焼体験、民話の発表会、栽培活動</td></tr><tr><td>宮内小</td><td>生活科の学習、読み聞かせ活動、花・野菜の栽培</td></tr><tr><td>砥部小</td><td>昔の遊び体験、野菜・米作り、砥部焼作り、50年前の大先輩との交流</td></tr><tr><td>広田小</td><td>野菜・米作り、砥部焼作り、俳句活動、伝統芸能（太鼓・万歳）</td></tr><tr><td>砥部中</td><td>総合的な学習（地域巡り、文化活動、働く人に学ぶ講話、文化活動発表会）</td></tr></table>					校名	内容	麻生小	環境学習、校区探検、福祉学習、砥部焼体験、民話の発表会、栽培活動	宮内小	生活科の学習、読み聞かせ活動、花・野菜の栽培	砥部小	昔の遊び体験、野菜・米作り、砥部焼作り、50年前の大先輩との交流	広田小	野菜・米作り、砥部焼作り、俳句活動、伝統芸能（太鼓・万歳）	砥部中
校名	内容															
麻生小	環境学習、校区探検、福祉学習、砥部焼体験、民話の発表会、栽培活動															
宮内小	生活科の学習、読み聞かせ活動、花・野菜の栽培															
砥部小	昔の遊び体験、野菜・米作り、砥部焼作り、50年前の大先輩との交流															
広田小	野菜・米作り、砥部焼作り、俳句活動、伝統芸能（太鼓・万歳）															
砥部中	総合的な学習（地域巡り、文化活動、働く人に学ぶ講話、文化活動発表会）															
事業評価	砥部町の地場産業である砥部焼体験、50年前の大先輩との交流、俳句活動等、各学校で受け継がれてきた特色ある活動をはじめ、それぞれの学校で交付金を有効に活用して地域の特性を持った個性的な教育活動を行うなど、概ね目標とする成果であった。															
課題	・脱ゆとり教育による授業時数の増加に伴う時間の確保 ・感染症拡大時にも地域と交流できる学習の推進			評価	B											
				方向性	維持											

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。					
主要施策	生きる力を育む教育の推進					
事業No.	9	事業名	キャリア教育推進事業		決算額	－
事業目的	地域での職場体験学習を通じ、郷土への理解を深めるとともに、生徒のコミュニケーション能力や勤労観を育み、社会性を涵養する。					
事業概要及び成果	中学2年生を対象に、働く意義や忍耐力、様々な職種の学びなど充実したキャリア教育を推進することにより、望ましい勤労観や職業観を形成する。 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、職場体験学習に代えて製造業や接客業など、地域の6か所の事後所の方に働くことについての講演を依頼し、実施した。					
	1 えひめジョブチャレンジU-15事業 ■ 実施日 11月20日の1日間 ■ 参加人数 中学校2年生 206人 ■ 協力事業所 6社 サービス業 1社 建設・不動産業 1社 教育機関 1園 製造業 1社 金融機関 1社 飲食業 1社					
事業評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため職場体験学習が制限される中、講演やオンラインを取り入れた交流など可能な方法で実施した。社会参画意識の醸成において課題が残るが、特別な事態の中で6社の参加を得て事業に取り組むことができたことなど、概ね目標とする成果であった。					
課題	・講演やオンライン交流だけでは、社会参画意識の醸成効果が乏しいため、特別な事態においても職場体験が実施できる体制づくり			評価	B	
				方向性	維持	

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	給食センター係																																
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																																				
主要施策	生きる力を育む教育の推進																																				
事業No.	10	事業名	学校給食運営事業		決算額	172,828,238円																															
事業目的	調理業務を衛生的かつ円滑、効果的に実施し、栄養バランスのとれた安全で安心な給食を提供する。																																				
事業概要及び成果	1 学校給食センター運営委員会 学期ごとに学校給食センター運営委員会を開催し、学校給食の取り組み状況を報告するとともに、物資の価格や地産地消の推進について協議を行った。 ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、1学期及び3学期は書面開催																																				
	2 給食調理 ■ 実施回数 178回/年 ■ 調理食数 1,981食/日 ■ 給食費（学校給食材料負担金） 85,289,112円 <table><tr><td></td><td>幼稚園</td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>1食あたり</td><td>235円</td><td>250円</td><td>290円</td></tr></table> ※平成29年4月改定						幼稚園	小学校	中学校	1食あたり	235円	250円	290円																								
		幼稚園	小学校	中学校																																	
	1食あたり	235円	250円	290円																																	
	3 運営経費 (単位：円) <table><tr><td>年度</td><td>人件費</td><td>消耗品費</td><td>燃料/光熱水費</td><td>賄材料費</td><td>修繕/工事費</td><td>その他</td><td>計</td></tr><tr><td>2年度</td><td>52,663,932</td><td>4,188,726</td><td>16,183,930</td><td>86,153,741</td><td>2,071,297</td><td>11,566,612</td><td>172,828,238</td></tr><tr><td>元年度</td><td>45,858,116</td><td>3,618,535</td><td>19,092,820</td><td>87,075,091</td><td>1,388,717</td><td>11,076,194</td><td>168,109,473</td></tr><tr><td>30年度</td><td>44,492,460</td><td>3,117,739</td><td>21,454,452</td><td>97,080,853</td><td>2,793,751</td><td>8,722,001</td><td>177,661,256</td></tr></table>					年度	人件費	消耗品費	燃料/光熱水費	賄材料費	修繕/工事費	その他	計	2年度	52,663,932	4,188,726	16,183,930	86,153,741	2,071,297	11,566,612	172,828,238	元年度	45,858,116	3,618,535	19,092,820	87,075,091	1,388,717	11,076,194	168,109,473	30年度	44,492,460	3,117,739	21,454,452	97,080,853	2,793,751	8,722,001	177,661,256
	年度	人件費	消耗品費	燃料/光熱水費	賄材料費	修繕/工事費	その他	計																													
	2年度	52,663,932	4,188,726	16,183,930	86,153,741	2,071,297	11,566,612	172,828,238																													
	元年度	45,858,116	3,618,535	19,092,820	87,075,091	1,388,717	11,076,194	168,109,473																													
	30年度	44,492,460	3,117,739	21,454,452	97,080,853	2,793,751	8,722,001	177,661,256																													
	4 地産地消の推進（町内産物資の状況） ■ 購入額合計 2,672,462円 ■ 納入業者数 13業者 ■ 納品回数134回 ■ 物資種類 種類（干ししいたけ、ほうれん草、玉ねぎ、キャベツ、米、七折梅など）																																				
5 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 令和2年4月から5月にかけて学校が臨時休業されたことにより、7月及び8月の本来夏休み期間中に夏休みが短縮されて授業が行われたため、13日間、臨時的に給食の提供を行った。																																					
事業評価 幼稚園から中学校までの成長期の子供たちに対し、発育段階に応じた栄養豊かな給食を提供することができた。また、専門業者による施設、厨房設備の保守点検等を行い、事故無く運営ができた。食物アレルギーへの対応を適切に行うことにより、安全な学校給食の提供が図ることができるなど、概ね目標とする成果であった。																																					
課題	・慢性的な人員不足が続いている。将来にわたり安定的に給食を提供するため、調理・配送業務民間委託の導入				評価	B																															
					方向性	維持																															

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	総務係
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。				
主要施策	教育力の向上				
事業No.	11	事業名	校務支援・業務改善事業		決算額 15,226,240円
事業目的	教職員一人ひとりに校務用PCが配備され、セキュリティの確保された校務環境を提供するとともに、社会問題化している教職員の長時間勤務の改善を図る。				
事業概要及び成果	1 校務用PCの配備 小学校78台/中学校54台 ■ リース期間 R2.8～R7.7（5年間リース） ■ 支払総額 91,608,000円（うち2年度分12,214,400円）				
	2 愛媛スクールネット（ES-net）の活用 県下の小中学校等を結ぶ愛媛の教育専用ネットワークに参画し、インターネットによる情報の収集・発信の手段として校務事務に活用した。 ■ 回線利用料 435,600円				
	3 学校閉庁日の設定 学校業務閑散期となる8月中旬に学校閉庁日を設け、教職員の休暇取得を促すことにより、心身の健康増進や地域活動等へ参画しやすい体制整備を図った。 ■ 実施期間 8月11日(火)～14日(金)				
	4 スクール・サポート・スタッフの配置 教材の作成など、教員の事務を補助するスクール・サポート・スタッフを砥部地区の小学校3校に配置し、相談体制を充実させたことにより、教員の負担軽減に繋げることができた。 ■ 延べ配置日数 630日 ■ 延べ配置時間 2,520時間 ■ 人件費 2,576,240円 ※スクール・サポート・スタッフ配置事業費補助金（県補助）908,000円を充当				
事業評価	校務用PC配備に併せて導入した校務支援ソフトウェアやスクール・サポート・スタッフの配置により、教職員の業務の負担を軽減することができた。しかし、目に見えて教職員の勤務時間が減少するといった状態には至っていないが、将来に向けての環境整備が整ったため、概ね目標とする成果であった。				
課題	・仕事に対する理念や信条によって長時間勤務を繰り返す教職員が存在するため、学校現場を考慮した早期退庁を促すための制度			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	総務係																		
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																						
主要施策	教育力の向上																						
事業No.	12	事業名	教職員研修事業	決算額	0円																		
事業目的	町又は学校独自に研究授業や研修を実施し、教職員の指導力向上、綱紀保持及び服務規律の徹底を図る。																						
事業概要及び成果	1 校内研修会の実施 自校教職員相互での授業研究など、各校において校内研修を実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数も減じ、外部講師の招へいも最小限として実施した。 外部講師等を招へいしての校内研修及び他校への授業公開の実施状況は下記のとおり。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th>麻生小</th><th>宮内小</th><th>砥部小</th><th>広田小</th><th>砥部中</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td><td>0回</td><td>2回</td><td>3回</td><td>1回</td><td>1回</td></tr> <tr> <td>延べ参加者数</td><td>0人</td><td>44人</td><td>37人</td><td>7人</td><td>10人</td></tr> </tbody> </table> ■ 校内初任者研修 ■ 書き初め指導力向上研修 ■ 中予教育事務所担当指導主事による小・中学校フォローアップ研修（授業公開） ■ 中予教育事務所担当指導主事による授業研究（授業公開） 2 外部講師を招へいせず実施した研修の一例 ■ 救急救命、不審者対応講習 ■ プログラミング研修 ■ ICT機器研修 ■ 人権・同和教育研修 ■ 交通安全・服務規律研修					種別	麻生小	宮内小	砥部小	広田小	砥部中	開催回数	0回	2回	3回	1回	1回	延べ参加者数	0人	44人	37人	7人	10人
種別	麻生小	宮内小	砥部小	広田小	砥部中																		
開催回数	0回	2回	3回	1回	1回																		
延べ参加者数	0人	44人	37人	7人	10人																		
事業評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた研修を一部実施することができなかった。オンライン研修が一般化する中で、創意工夫による研修を実施することができなかったため、目標とする成果をやや下回った。																						
課題	・教職員の負担を考慮し、対面研修とオンライン研修とを効果的に組み合わせた研修			評価	C																		
				方向性	維持																		

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。				
主要施策	教育力の向上				
事業No.	13	事業名	学力向上推進事業		決算額 204,185円
事業目的	教育・学習指導の課題を明らかにし、今後の教育内容の改善及び学力の向上に資する。				
事業概要及び成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学力診断テストの実施や学力向上推進委員会（実践活動部会）による事業研究会は行えなかった。 また、4月から5月にかけて学校がすべて臨時休業となったことから、再開後は授業のペースアップを余儀なくされた。これによる児童・生徒間の学力差の拡大が懸念されたため、家庭学習用のプリントを配布し、基礎的・基本的事項の習得に努めた。この他、朝学習の充実を図り、学習時間の確保に努めるとともに、短時間に集中して学習に取り組む習慣を育てた。				
	1 学力診断テストの実施(愛教研) ■ 対象 中学校：1～2年生 ■ 経費 204,185円 ※東京書籍の診断テストは小・中ともに実施せず				
事業評価	砥部町学力向上推進委員会では、全国学力・学習状況調査等の調査結果及び各校が実施する学校評価の分析を行い、具体的な施策等の立案を行っているが、令和2年度については新型コロナウイルス感染症拡大の影響による全国学テの中止や、校内研究会の授業参観の中止等により十分な研究が行えなかった。しかし、新入学児童の保護者へ家庭学習に関するパンフレットを配布したり、在校児童・生徒にはこれを補うため家庭学習用のプリントを配布するなど、概ね目標とする成果であった。				
課題	・全国学テや学力診断テスト等の結果分析に基づいた授業改善と家庭での学習習慣の定着			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。				
主要施策	教育力の向上				
事業No.	14	事業名	情報教育推進事業	決算額	222,778,620円
事業目的	コンピューターに慣れ親しみ、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために必要な情報活用能力を育成し、児童生徒の確かな学力の定着向上を図る。				
事業概要及び成果	パソコン教室、普通教室等に設置した教育用パソコンの活用により、情報機器への関心を高めた。広田小学校では、タブレットパソコンを活用し、ドリルや映像を利用した授業を展開した。 GIGAスクール構想に対応するため、1人1台のタブレット端末を整備した。また、将来に向けての家庭での学習を支援するためモバイルWi-Fiルーターを購入した。 1 GIGAスクール端末購入 ■ タブレット端末総台数 1,817台 総額 139,040,000円 - 小学校 1,158台 費用 88,611,318円 - 中学校 659台 費用 50,428,682円 ■ 家庭学習用モバイルWi-Fiルータ - 台数 63台 - 費用 512,820円 ■ 校内無線ネットワーク工事 総額68,441,000円 - 設計・監理費 8,360,000円 - 工事費 60,081,000円 2 校務支援 ■ 整備台数 151台（小学校 89台/中学校 60台/委員会 2台） ■ 整備費用（賃貸借契約：5年） 5年総額 91,608,000円（令和2年8月～令和7年7月） 2年度分 12,214,400円（2,570,400円（旧システム：4月～7月分）				
事業評価	GIGAスクール構想の実現に向けて、タブレット端末を導入し、校内無線ネットワーク工事を完了するなど、概ね目標とする成果であった。				
課題	・教員のタブレット端末活用技術の向上 ・教育ソフトの充実と機器トラブルの減少			評価	B
				方向性	拡大

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

			所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係															
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																				
主要施策	教育力の向上																				
事業No.	15	事業名	外国語教育推進事業		決算額	12,298,095円															
事業目的	外国語教育の充実及びコミュニケーション能力を育成する。																				
事業概要及び成果	1 外国語指導助手の配置 小学校での英語の教科化に伴い、外国語指導助手の配置を2人から3人に拡充し、外国語活動や英語教育、国際理解教育を充実させた。英語を身近に感じるとともに、国際感覚を身につける素地の育成に努めた。 ■ 配置人数 3人 ■ 報酬（3人分）12,106,245円 ■ 派遣時間【小学校】9:00～16:00【中学校】9:00～16:00 【保育所・幼稚園】8:30～14:00 ※認定こども園含む。 ■ 派遣日数延べ日数（令和元年度2人、令和2年度3人） <table><tr><td>年度</td><td>保・幼</td><td>小学校</td><td>中学校</td><td>合計</td></tr><tr><td>2年度</td><td>24日</td><td>366日</td><td>118日</td><td>508日</td></tr><tr><td>元年度</td><td>41日</td><td>261日</td><td>43日</td><td>345日</td></tr></table>						年度	保・幼	小学校	中学校	合計	2年度	24日	366日	118日	508日	元年度	41日	261日	43日	345日
	年度	保・幼	小学校	中学校	合計																
	2年度	24日	366日	118日	508日																
	元年度	41日	261日	43日	345日																
	2 中学生英語検定料の助成 令和2年度から中学生を対象に英語検定料の一部を助成し、英語検定試験にチャレンジすることで、英語能力の向上を図った。 ■ 対象者 英検3級以上を受験した町内に住所を有する中学生の保護者 98人 ■ 補助金の額 検定料の2分の1以内 上限2,000円 年度に1度限定 ■ 交付実績 191,850円 ■ 受験結果 <table><tr><td>区分</td><td>2級</td><td>準2級</td><td>3級</td><td>合計</td></tr><tr><td>受験者</td><td>3人</td><td>11人</td><td>84人</td><td>98人</td></tr><tr><td>合格者</td><td>0人</td><td>8人</td><td>80人</td><td>88人</td></tr></table>						区分	2級	準2級	3級	合計	受験者	3人	11人	84人	98人	合格者	0人	8人	80人	88人
	区分	2級	準2級	3級	合計																
	受験者	3人	11人	84人	98人																
	合格者	0人	8人	80人	88人																
事業評価	英語指導助手を3人配置することで、学習指導要領に規定する標準授業数に対応した生きた英語の授業展開ができた。また、英語検定試験の受験料を補助することで、98人の生徒が受験し、88人が合格したため、概ね目標とする成果であった。																				
課題	・英語検定の受験者の拡大と合格率90%以上					評価	B														
						方向性	維持														

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

		所管課名	学校教育課		担当係	学校教育係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。						
主要施策	教育力の向上						
事業No.	16	事業名	いじめ・不登校等対策事業			決算額	2,379,725円
事業目的	いじめ、不登校等の諸問題に対応するため、相談員等の体制整備を図り、児童生徒の健全育成を図る。						
事業概要及び成果	児童・生徒及び保護者などへの相談事業の実施により、ストレスや不安を軽減させるとともに、教職員等への指導・助言を行った。						
	1 ハートなんでも相談員の配置 2人 ※小学校のみ						
	■ 派遣日数 140日 ■ 勤務時間 555時間 ※4校巡回						
			2年度	元年度	増減		
	年間相談件数		756件	605件	151件		
	2 スクールカウンセラーの配置 1人（県より派遣） ※中学校のみ						
	■ 配置日数 39日 ■ 勤務時間 148時間						
			2年度	元年度	増減		
	年間相談人数		323人	360人	△37人		
	3 スクールソーシャルワーカー 2人						
■ 配置日数 190日 ■ 勤務時間 738時間							
		2年度	元年度	増減			
年間支援者数		小学校	30人	4人	26人		
		中学校	37人	13人	24人		
4 Q-Uアンケート調査の実施							
標準化された心理検査「Q-Uアンケート」を実施し、生徒の状況を把握するとともに、学級経営の健全化に努めた。							
事業評価	ハートなんでも相談員への相談件数が151件増加するなど、より多くのいじめや不登校児童生徒を認知し、教職員への指導や助言を行うことができた。いじめの解消や不登校児童生徒の早期発見・対応に繋がり、概ね目標とする成果であった。						
課題	・限られた人員の中で増加する相談件数や困難事例に適切に対応するため、関係機関と連携した円滑な相談活動					評価	B
						方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

		所管課名	学校教育課		担当係	総務係																																													
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。																																																		
主要施策	教育力の向上																																																		
事業No.	17	事業名	山村留学センター運営事業			決算額	19,236,171円																																												
事業目的	人口減少や地域で固定化する人間関係など、小規模校が抱える課題の解消を図るとともに、豊かな自然環境の中での共同生活、体験活動を通じて「心豊かでたくましい子ども」の育成を図る。																																																		
事業概要及び成果	小学生を対象に、県内外から留学児童を受け入れ、山村留学センターでの集団生活や、様々な自然・勤労体験、地域住民との交流を行った。																																																		
	1 留学児童																																																		
	■ 入所児童の状況																																																		
	<table><tr><td>学年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>計</td><td>前年比</td></tr><tr><td>男子</td><td>3人</td><td>3人</td><td>2人</td><td>8人</td><td>△ 3</td></tr><tr><td>女子</td><td>1人</td><td>2人</td><td>3人</td><td>6人</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>4人</td><td>5人</td><td>5人</td><td>14人</td><td>△ 2</td></tr></table>					学年	4年	5年	6年	計	前年比	男子	3人	3人	2人	8人	△ 3	女子	1人	2人	3人	6人	1	計	4人	5人	5人	14人	△ 2	<table><tr><td colspan="4">(出身地別内訳)</td></tr><tr><td>愛知県</td><td>1人</td><td>兵庫県</td><td>1人</td></tr><tr><td>岐阜県</td><td>2人</td><td>広島県</td><td>1人</td></tr><tr><td>大阪府</td><td>1人</td><td>愛媛県</td><td>7人</td></tr><tr><td></td><td></td><td>計</td><td>14人</td></tr></table>		(出身地別内訳)				愛知県	1人	兵庫県	1人	岐阜県	2人	広島県	1人	大阪府	1人	愛媛県	7人			計	14人
	学年	4年	5年	6年	計	前年比																																													
	男子	3人	3人	2人	8人	△ 3																																													
	女子	1人	2人	3人	6人	1																																													
	計	4人	5人	5人	14人	△ 2																																													
	(出身地別内訳)																																																		
	愛知県	1人	兵庫県	1人																																															
岐阜県	2人	広島県	1人																																																
大阪府	1人	愛媛県	7人																																																
		計	14人																																																
2 収支決算書 ※正職員人件費を除く																																																			
■ 収支決算額 (単位：円)																																																			
<table><tr><td>年度</td><td>2年度</td><td>元年度</td><td>差引増減</td></tr><tr><td>歳出</td><td>19,236,171</td><td>16,336,855</td><td>2,899,316</td></tr><tr><td>歳入</td><td>5,174,118</td><td>5,824,620</td><td>△ 650,502</td></tr></table>				年度	2年度	元年度	差引増減	歳出	19,236,171	16,336,855	2,899,316	歳入	5,174,118	5,824,620	△ 650,502	※歳出の増額については、留学児童が安全・快適に過ごせるよう居室等に8台空調機の設置工事を行ったことと、夜間に勤務する職員を増員したことによるもの。																																			
年度	2年度	元年度	差引増減																																																
歳出	19,236,171	16,336,855	2,899,316																																																
歳入	5,174,118	5,824,620	△ 650,502																																																
3 山村留学センター運営協議会																																																			
山村留学事業の円滑な実施及び振興充実を図るため、地域、PTA、学校関係者等で構成する協議会を開催した。																																																			
■ 第1回 9月1日(火) 現状報告等																																																			
■ 第2回 2月25日(木) 事業報告、次年度受入状況報告																																																			
事業評価	2年度の留学児童（14人）は、過去5年間の平均値（14.4人）と同程度であった。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動が制限される中、既存事業の運営方法の見直しや新規事業に取り組み、留学センターの基本方針に沿った運営を行うことができたため、概ね目標とする成果であった。																																																		
課題	・保護者及び地域へのきめ細かな情報発信を行うことによる信頼関係の維持 ・建物の老朽化に伴う改修					評価	B																																												
						方向性	維持																																												

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

		所管課名	学校教育課	担当係	総務係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。					
主要施策	教育力の向上					
事業No.	18	事業名	学校間連携推進事業		決算額	－
事業目的	健全な学校経営を図るため、校長会等を通じ、学校間及び教育委員会で各種情報を共有し、問題等の未然防止、解決を図る。					
事業概要及び成果	新型コロナウイルス感染症が本格的に広がりを見せたことから、昨年を大きく上回る会議の開催となった。一堂に会し協議することで、様々な情報共有を行った。 共同学校事務室については、町内の事務職員が共同で事務作業を行うことにより日常的に職場内訓練を行うことができ、事務職員として習得すべき知識や技法の向上に努めた。					
	1 校長会の開催 町内はもとより管内における諸問題の情報を共有し、共通認識の下、学校経営にあたるため、中予教育事務所（管理主事）を交えて会議を開催した。 ■ 開催頻度 13回/年 ・新型コロナウイルス感染症拡大による感染予防対策と学びの保障の調整 ・警報時の取扱いの改正 ・教職員の綱紀粛正の保持 ・修学旅行、自然の家、長期休暇中の過ごし方等学校経営について 2 行事打合せ会 各種行事における学校と教育委員会事務局との連携を密するため、毎月開催した。 ■ 開催頻度 11回/年（学校休業中を除く） 3 共同学校事務室の運営 拠点校を砥部中学校とする「砥部町共同学校事務室」を形成している。事務長を地域長とし、構成校の学校事務を組織的に処理することにより、学校事務の平準化と効率化を進めた。 ・人事異動に伴う諸手当の認定 ・給与管理表の確認 ・年末調整 ・期末勤勉、査定昇給 ・就学援助申請関係 ・人事異動関係					
事業評価	校長会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止についての国や県の状況を確認しながら、学校休業や学校行事の実施について、必要な措置を講じることができた。 また、共同学校事務室の運営については、事務職員が配置されなかった広田小学校についても、他校と同レベルの事務処理ができたことなど、概ね目標とする成果であった。					
課題	・校長の負担軽減のため、協議事項の精査、運営の簡素化、場合によってはオンライン会議を行うなど効果的な校長会の運営 ・共同学校事務室における校務支援システムの効果的な活用				評価	B
					方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

			所管課名	学校教育課	担当係	総務係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。						
主要施策	安全・安心の充実した教育環境の整備						
事業No.	19	事業名	学校施設整備・維持管理			決算額	303,459,972円
事業目的	校舎等の学校施設を適切に管理し、安全・安心な学習環境を整備する。						
事業概要及び成果	1 小中学校管理費 (単位：円)						
		人件費	消耗品	光熱/燃料費	委託料	工事/修繕料	その他
	麻生小	0	3,143,546	5,743,576	5,488,584	132,000,512	4,428,880
	宮内小	0	2,673,752	3,926,044	7,376,000	1,119,546	5,133,894
	砥部小	0	2,538,901	3,764,125	2,837,608	6,042,771	4,593,577
	広田小	0	1,225,071	1,559,606	4,869,605	1,366,247	3,318,151
	空調整備	0	0	0	3,300,000	49,252,500	0
	人件費	10,619,044	0	0	0	0	0
	小学校計	10,619,044	9,581,270	14,993,351	23,871,797	189,781,576	17,474,502
	砥部中	0	5,213,385	10,062,417	9,191,117	2,268,847	8,442,665
	人件費	1,960,001	0	0	0	0	0
	中学校計	1,960,001	5,213,385	10,062,417	9,191,117	2,268,847	8,442,665
	2 主要事業（再掲） ※工事費には監理委託費含む。						
	■ 空調整備工事（全小学校） 52,552,500円（特別教室及び管理諸室への空調整備）						
	■ 校舎等大規模改修工事（麻生小） 139,054,850円（※設計はH30年度実施）						
	※上記2工事にかかる詳細は事業No.20、21に記載。						
■ 国旗掲揚ポール修繕工事（麻生小） 779,000円							
■ 通級指導教室カーペット張替工事（宮内小） 220,000円							
■ 駐車場斜面崩壊防止工事（砥部小） 3,509,000円							
■ 鳥小屋解体工事（砥部小） 379,500円							
■ プログラムタイマー取替工事（砥部小） 330,000円							
■ 支障木伐採撤去工事（砥部小） 485,100円							
事業評価	予定していた事業を年度内に終えることができた。その中で懸案事項であり、今後の課題でもある多目的トイレの設置について、麻生小学校大規模改修工事において、再度、全体計画を見直し、予算の範囲内で実施することができたため、目的とする成果をやや上回った。						
課題	・トイレ洋式化、照明LED化及び自動水栓化					評価	A
						方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課		担当係	総務係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。						
主要施策	安全・安心の充実した教育環境の整備						
事業No.	20	事業名	小学校空調整備工事			決算額	52,552,500円
事業目的	令和元年度に実施した小学校空調設備整備工事(Ⅰ期)時に実施できなかった、特別教室(更新)及び管理諸室(新設・更新)について、学校施設環境改善交付金を活用して整備する。						
事業概要及び成果	1 工事概要						
	■ 校舎空調設備整備工事						
	学校区分	Ⅰ期工事			Ⅱ期工事		合 計
		(元年度)			(2年度)		
		普通教室	特別教室	管理諸室	特別教室	管理諸室	
	麻生小学校	17室	8室	1室	3室	9室	38室
	宮内小学校	13室	8室		1室	11室	33室
	砥部小学校	14室	10室			8室	32室
	広田小学校	3室	6室		1室	4室	14室
	2 工事費						
	■ 設計委託料 10,292,400円 ※設計は平成30年度実施で設計金額はⅠ期分含む。						
■ 工事費							
【麻生小】 14,869,800円							
【宮内小】 15,889,500円							
【砥部小】 10,652,400円							
【広田小】 7,840,800円							
■ 監理委託料 3,300,000円							
事業評価	特別教室(更新)及び管理諸室(新設・更新)に空調設備を整備したことで、普通教室以外の教室についても必要な教室については全て整備が完了し、概ね目標とする成果であった。						
課題	・ 施工業者が学校により分散したことで工程会議等に想定以上の労務時間を費やしたため、効率的な工程会議の運営による工事関係者の意思疎通 ・ 空調設備の保守管理					評価	B
						方向性	廃止

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	学校教育課	担当係	総務係	
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。					
主要施策	安全・安心の充実した教育環境の整備					
事業No.	21	事業名	小学校校舎等大規模改修工事		決算額	139,054,850円
事業目的	麻生小学校校舎及び屋内運動場について外壁改修等を行い、施設の長寿命化を図るとともに、アスベスト除去及び屋内運動場については避難所運営にも考慮した改修を実施する。					
事業概要及び成果	1 工事概要 【麻生小学校】 【校舎棟】 ■ 外壁改修（ひび割れ補修、欠損部改修、爆裂部改修、モルタル浮き補修 他） ■ 防水改修工事（ウレタン塗膜防水、シーリング打替 他） ■ アスベスト除去工事 除去面積：232㎡ 【屋内運動場棟】 ■ 防水改修工事（ウレタン塗膜防水、シーリング打替 他） ■ 塗装改修工事（可とう形改修塗材RE吹付 他） ■ トイレ改修工事（洋式化及び多目的トイレ新設）					
	2 工事費 ■ 設計委託料 5,994,000円 （平成30年度実施） ■ 工事費 129,669,000円 内、アスベスト除去 25,166,000円 トイレ改修 10,002,000円 ■ 監理委託料 3,391,850円 内、アスベスト除去 644,451円 トイレ改修 271,348円					
事業評価	空調整備工事のため1年延期されたが、年度内に完了し、体育館に多目的トイレを新設するなど避難所運営にも配慮した改修を行うことができ、安心安全な学校環境を整備することができたため、概ね目標とする成果であった。					
課題	・使用機械の駆動音で近隣住民から苦情が寄せられたため、設計協議における使用機械の選定と騒音対策				評価	B
					方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

		所管課名	学校教育課		担当係	総務係					
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。										
主要施策	安全・安心の充実した教育環境の整備										
事業No.	22	事業名	学校安全対策事業			決算額	154,400円				
事業目的	子どもが安心して、学校生活等を営む環境を確保するために、登下校時の安全確保・防犯対策・学校遊具等安全対策・学校防災体制の充実を図る。										
事業概要及び成果	1 通学路安全対策事業 砥部町通学路安全対策プログラムに基づいて、学校、教育委員会及び関係機関等が連携し、2年に1回、通学路の安全対策を実施しており、令和元年度の実施に基づき対策を行った。 ■ 対策必要箇所 37箇所 ■ 対策済 29箇所（内R2年度執行済 14箇所） ■ 対策実施率 78% ■ 対策例 横断歩道設置、停止線等引き直し										
	2 防犯対策事業 凶悪犯罪から子どもを守るため、児童生徒の見守り活動を中心とした防犯活動を実施した。 ■ 青色防犯パトロール 各校1～4回/月 早朝・放課後実施 ■ 自動車借上料 42,000円 ■ 防犯ブザー配布(小学校新1年生) 配布個数 176個 88,110円 ■ スクールガード養成講習会 39人参加 講師：松山南警察署 生活安全課長										
	3 学校防災力強化事業 ■ 砥部町防災教育推進連絡協議会 松山地方気象台を活用しての実施を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。 ■ 防災士養成（教職員） 24,290円 学校における災害、避難所対応の強化のため、2人（広田小・砥部中）を養成した。										
	【配置状況】	年度	麻生幼	宮内幼	砥部こども園	麻生小	宮内小	砥部小	広田小	砥部中	計
	(年度末時点)	2年度	0人	1人	0人	3人	3人	5人	2人	3人	17人
事業評価	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、砥部町防災教育推進連絡協議会での研修は実施できなかったが、可能な限り安全対策事業を実施することができたため、概ね目標とする成果であった。										
課題	・住民に対策を委ねるケースや地理的条件等により対策が進まない場所があるため、対策の代替協議や住民に対する財政的支援						評価	B			
							方向性	維持			

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

		所管課名	学校教育課	担当係	総務係
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。				
主要施策	安全・安心の充実した教育環境の整備				
事業No.	23	事業名	新型コロナウイルス感染症対策事業	決算額	13,954,373円
事業目的	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による、集団感染のリスクを避け、安心して学ぶことができる体制の整備を促進する。				
事業概要	1 学校保健特別対策補助金関係 9,752,730円 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による集団感染のリスクを避け、安心して学ぶことができる体制の整備を促進した。 ■ 感染症対策のためのマスク等購入支援事業 567,592円(小学校362,041円・中学校205,551円) (購入品目)消毒液、フェイスシールド 等 ■ 学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業 7,041,379円(小学校5,023,044円・中学校2,018,335円) (購入品目)サーキュレーター、非接触体温計 等 ■ 感染症対策等の学校教育活動継続支援事業 2,143,759円(小学校1,423,633円・中学校720,126円) (購入品目)消毒液、非接触体温計 等				
成果	2 臨時休業対策 1,776,598円 経済的理由によって就学困難な児童の保護者に対し、負担を軽減するため、新型コロナウイルス感染症対策で臨時休校となった期間の昼食代として、必要な経費を助成した。 ■ 一斉臨時休業対策昼食費支援事業費 576,378円(小学校366,853円・中学校209,525円) 臨時休校となった期間（令和2年3月4日～24日） 対象者数：小学校121人、中学校70人 ■ 臨時休業対策昼食費支援事業費 1,200,220円(小学校667,780円・中学校532,440円) 臨時休校となった期間（令和2年4月～5月） 対象者数：小学校112人、中学校71人				
事業評価					
課題				評価	
				方向性	

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

		所管課名	学校教育課	担当係	総務係
目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。				
主要施策	安全・安心の充実した教育環境の整備				
事業No.	23	事業名	新型コロナウイルス感染症対策事業	決算額	
事業目的	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による、集団感染のリスクを避け、安心して学ぶことができる体制の整備を促進する。				
事業概要及び成果	3 学校臨時休業対策費補助金関係 1,925,104円 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため小中学校が臨時休校となったことに伴い、学校給食が中止されたことによって、影響を受けた学校給食の基本物資（パン及び牛乳）委託加工業者へ支援した。				
	4 修学旅行予約変更料支援事業 550,452円 保護者の経済的な負担軽減を図るため、新型コロナウイルスの影響に伴う修学旅行の参加辞退や延期に係る追加的費用について助成した。				
	■ 麻生小学校 キャンセル料 8,195円×66人=540,870円				
	■ 宮内小学校 不参加者 1 名 9,582円 (参考)				
		日 程	行 先	参加者数	
	麻生小学校	3月 2日～ 3日 (1泊)	県内 (東予方面)	66人	
	宮内小学校	11月 5日～ 6日 (1泊)	県内 (南予・東予方面)	62人	
	砥部小学校	10月27日～29日 (2泊)	広島県、山口県	43人	
	広田小学校	11月 5日～ 6日 (1泊)	高知県、県内 (南予方面)	15人	
事業評価	予定していた感染症対策のための環境整備等が実施できたため、概ね目標とする成果であった。				
課題	・教職員の価値観の違いによる学校間で整備備品等に差異が生じないよう、整備計画に統一性を持たせる。 ・学校内の消毒に係る教職員の負担軽減			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。				
主要施策	ニーズに合わせた学習機会の充実				
事業No.	24	事業名	社会教育推進事業	決算額	2,200,000円
事業目的	海外の一流音楽や様々な国の文化や違いにふれることで国際感覚豊かな人材育成を図る。 また、子どもが豊かな人間性と積極的に読書活動を行う意欲を高め、生涯にわたる読書習慣を定着させる。				
事業概要及び成果	1 国際交流サマースクールの開催 新型コロナウイルス感染予防のため、開催日を夏休み後に延期し1泊2日で実施した。 ■ 開催日 9月12日（土）～13日（日）旧高市小学校で開催 ■ 参加者 町内の小学生35人を含む57人と愛媛大学の留学生10人 【モザンビーク(1人)、フィリピン(4人)、インドネシア(3人)、インド(1人)、オーストラリア(1人)】 ■ 事業内容 ・開校式（留学生らの自己紹介、踊りなどのパフォーマンス） ・ワークショップ（エコワークショップで農業学習） ・泡フェスティバル（えひめこどもの城協力による） ・科学実験（企業協力を得てこま作りなど）など				
	2 ショパンビレッジフェスティバルin砥部町の開催 新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインで開催した。 ■ 開催日 11月3日（火）3回配信 ■ 視聴者 2,090人（WEBサイトによる視聴） ■ 事業内容 ・ショパンピアノコンサート&パフォーマンス				
	3 砥部町子ども読書活動推進計画の策定 子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高め、生涯にわたる読書週間を身に付けるため、取り組むべき基本的な方向性を定める「砥部町子ども読書活動推進計画」を策定した。 ■ 計画期間 令和3年4月から令和8年3月まで(5年間)				
事業評価	国際交流サマースクールは、町内の小学生の参加が昨年度に比べて5人増加した。 ショパンビレッジフェスティバルの本来の趣旨は、町民に一流の音楽やパフォーマンスに触れてもらうことであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により砥部町で開催できないため、砥部町とポーランドを結んだ企画を世界に発信した。 遅れていた「砥部町子ども読書活動推進計画」を幼稚園、小中学校、読み聞かせボランティア、子育て支援関係者で協議して策定した。 当初予定していた事業が予定どおり完了し、概ね目標とする成果であった。				
課題	・砥部町子ども読書活動推進計画を推進するためのガイドラインの作成 ・ショパンビレッジフェスティバルのコロナ禍での開催方法			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ―事業別評価表―

		所管課名	社会教育課	担当係	公民館係	
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。					
主要施策	ニーズに合わせた学習機会の充実					
事業No.	25	事業名	公民館活動事業		決算額	5,013,606円
事業目的	近年多様化・高度化している住民の学習意欲に対応するため、子ども・成人・高齢者などそれぞれを対象とした講座・教室等を開催して、社会教育の活性化を図る。					
事業概要及び成果	1 中央公民館の事業 ■ とべっ子文化の広場教室（25教室：受講生233人） ■ つくり育てる花教室（年1回：25人） ■ ふれあい国際交流デイキャンプ（年3回：延べ93人） ■ 陶街道五十三次めぐり※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 ■ ふるさと探訪（1日間：18人） ■ 新春囲碁・将棋大会（2日間：21人） ■ 生き生きシルバークラブ（年4回：延べ93人） ■ 国際教養講座（年20回：延べ273人） ■ ポーランド語講座（年10回：延べ71人） ■ しめ飾りづくり教室（年1回：11人） ■ 英会話教室（年30回：延べ369人） ■ 分館長研修会（年1回：43人） ■ まなびや事業（年2事業〔砥部焼を学ぼう・坂村真民さんを学ぼう〕：延べ43人）					
	2 千里地区公民館の事業 ■ 千里地区公民館夏祭り※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止					
事業評価	3 ひろた交流センターの事業 ■ 交流センター文化教室（4教室：受講生35人） ■ サタデースマイルinひろた（年4回〔科学体験教室（2回）・木育教室・歴史めぐり〕：延べ68人） ■ ワクワク家庭円満教室〔歯科講習〕（年1回：11人） ■ ファミリースポーツ選手権〔ソフトボール〕（年1回：44人） ■ 秋季大運動会（広小・広保・ひろた交流センター合同）（年1回：約100人）					
	当初予定していた事業が新型コロナウイルス感染症の影響により、縮小等を余儀なくされたが、感染対策を行った上で可能な範囲で開催することができたため、概ね目標とする成果であった。					
課題	・参加者の固定化、高齢化が顕著で、事業もマンネリ化しているため、多様な世代への学習の提供と時代の要請や住民ニーズに即した事業改善				評価	B
					方向性	改善

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係			
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。							
主要施策	活動の場づくりと担い手の充実							
事業No.	26	事業名	文化会館・図書館管理運営	決算額	101,662,724円			
事業目的	文化会館は、各種事業を企画実施するほか、芸術文化の創造と生涯学習の推進を図る。図書館は、高度化・多様化する知的欲求に対応するとともに、子どもの読書活動の支援に努める。							
事業概要及び成果	砥部町文化会館条例及び砥部町立図書館条例等に基づき、指定管理者であるアクティオ株式会社によって管理運営している。							
	【臨時休館】							
	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため 4/14～5/10							
	・雨漏り改修工事のため 10/5～11/4							
	1 文化会館							
	■ 指定管理者 アクティオ株式会社							
	■ ふれあいホール稼働率 48.4%（利用日数155日／開館日数320日（△37日））							
	■ 利用者数 25,147人（△57,183人）							
	[うちホール10,462人（△20,084人）、会議室10,294人（△25,677人）]							
	<table><tr><th>事業名（通年事業）</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>カルチャー教室【11教室】（キッズDANCE、童謡唱歌、らくらくピアノ、ストレッチ、バランスボール、フェルデンクライス、3B体操、太極拳、どんどこ、オカリナ、アメリカンフラワー）</td><td>1,304人</td></tr></table>					事業名（通年事業）	受講者数	カルチャー教室【11教室】（キッズDANCE、童謡唱歌、らくらくピアノ、ストレッチ、バランスボール、フェルデンクライス、3B体操、太極拳、どんどこ、オカリナ、アメリカンフラワー）
事業名（通年事業）	受講者数							
カルチャー教室【11教室】（キッズDANCE、童謡唱歌、らくらくピアノ、ストレッチ、バランスボール、フェルデンクライス、3B体操、太極拳、どんどこ、オカリナ、アメリカンフラワー）	1,304人							
事業評価	2 図書館							
	■ 図書館貸出人数 34,266人							
	■ 図書館貸出冊数 129,360冊（1日あたり利用者数138人／開館日数248日）							
	・おはなし会（毎月第1・第3土曜日） 138人							
	・にこにこほっぺのおはなし会（毎月第2月曜日） 76人							
	・ひろたのみんなのおはなし会（毎月第1木曜日） 80人							
	・ブックスタート（4か月児 毎月、7か月児 奇数月） 83人							
	・よるのおはなし会（年1回 夏休みイベント） 30人							
	・ポップDEビブリオ2020（年1回） 27人							
	・図書館たんけん隊（3回 夏休み期間） 20人							
・読書記録帳（令和2年2月1日～） 登録人数55人								
事業評価	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一時休館をしたが、感染症拡大防止対策を講じながらサービスの低下を招かない最大限の工夫を行うなど、概ね目標とする成果であった。							
課題	・施設が老朽化しているため、点検と適切な修繕による施設の長寿命化 ・高齢化が進む図書館ボランティアの確保や読書記録帳を活用した町民の読書活動の充実			評価	B			
				方向性	維持			

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	公民館係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。			
主要施策	活動の場づくりと担い手の充実			

事業No.	27	事業名	公民館施設管理	決算額	19,675,710円
-------	----	-----	---------	-----	-------------

事業目的	安全・快適に利用できる学習環境の維持に努める。				
------	-------------------------	--	--	--	--

事業概要及び成果

1 中央公民館（体育館含む） 14,323,060円

【中央公民館】

主催事業		その他利用状況		合計	
利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
590回	5,278人	906回	18,699人	1,496回	23,977人

※主催事業には、文化教室の利用実績を含んでいます。

【中央公民館体育館】

利用回数	利用人数
1,076回	19,212人

2 千里地区公民館 969,208円

主催事業		その他利用状況		合計	
利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
0回	0人	99回	1,207人	99回	1,207人

3 ひろた交流センター 4,383,442円

主催事業		その他利用状況		合計	
利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
87回	896人	62回	1,404人	149回	2,300人

※主催事業には、文化教室の利用実績を含んでいます。

事業評価

中央公民館は、利用者の利便性向上のため、1・2階ロビーにあるモニターで施設案内情報等を放映できるようにしたほか、体育館の通気性の向上と遮光対策としてカーテン及び網戸の設置を行った。また、ひろた交流センターは、非常時にも安全に施設の機能を維持できるよう非常用電源設備を設置するなど、概ね目標とする成果であった。

課題

・千里地区公民館の活用

・中央公民館を休日開館し、利用者の利便性の向上とある学習環境の整備

評価	B
方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。				
主要施策	活動の場づくりと担い手の充実				
事業No.	28	事業名	青少年育成事業	決算額	2,431,129円
事業目的	登校指導や街頭補導等を通じた青少年の非行防止をはじめ、体験を通じた青少年の健全育成に努める。				
事業概要及び成果	1 青少年育成センター 教育委員会に事務局を置き、青少年に関する相談事業や登校指導・街頭補導等を行い、青少年の健全育成、非行防止のための活動を行った。 ■ 定例補導委員会 8回 ■ 補導委員数 34人（砥部32人・広田2人） ■ 登校指導（町内15カ所） 99回 ■ 街頭補導（19時30分～21時00分） 23回 ■ 相談活動（☎相談） 1回 ■ 啓発活動（リーフレット発行） 2,500部 ■ 児童生徒見守り活動（青パト巡回） 9回 【新型コロナウイルス感染対策症予防のため中止】 ※定例補導委員会（4・6・1・2月） ※街頭補導（4～7・1・2月） ※登校指導（4月） ※特別補導（催時の巡回指導） 3回 2 とべっ子志縁倶楽部（ボランティア事業） 小・中学校放課後の学習支援活動や登下校の見守り活動、読書支援活動を行った。 ■ 会員数 39人 ■ 放課後学習講座 ・砥部中学校 2回/週 ■ 放課後わくわくクラブ ・麻生・宮内・砥部小学校 1回/週 ■ 登下校見守り活動 最寄りの場所又は中学校指定の場所で随時 ※新型コロナウイルス感染症対策により、1学期は中止とした。				
事業評価	登校指導及び街頭補導は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、小・中学校の臨時休校中は活動しなかったが、学校再開後は活動などを行い、青少年の健全育成や非行防止に努めた。 とべっ子志縁倶楽部は、1学期は中止したものの、2学期から予定どおり学習に不安のある児童・生徒の学習補助を行った。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら当初予定していた事業が予定どおり完了し、概ね目標とする成果であった。				
課題	・補導委員の年齢層が高齢層に偏っているため若年層の活動への関わり強化 ・登校指導や街頭補導に加えて、多様な青少年健全育成事業の企画運営			評価	B
				方向性	拡大

教育委員会における事務の管理・執行状況 一事業別評価表一

	所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。			
主要施策	互いの人権を尊重する社会の構築			

事業No.	29	事業名	人権教育・人権対策推進事業		決算額	4,806,332円																						
事業目的	町民一人ひとりが様々な人権問題に対する理解を深め、人権意識の高揚を図ることを目的として、あらゆる人権問題の解消に努める。																											
事業概要及び成果	1 人権教育の推進・啓発 町民一人ひとりの人権意識の高揚を図るため、研修会や講座などの事業を実施した。 ■ 人権教育基礎講座：9月～10月に計6回の講座を開催 受講者数293人（前年269人）																											
	<table><tr><td>日 時</td><td>講 師</td><td>演 題</td></tr><tr><td>9月3日</td><td>石井公民館館長補佐 木下敬幸氏</td><td>高齢者の生きがい</td></tr><tr><td>9月10日</td><td>県人権教育協議会会長代行 米田孝弘氏</td><td>「部落差別解消推進法」の具現化を目指して</td></tr><tr><td>9月17日</td><td>松山市ボランティア活動体験学習研究会 代表 和田佳子氏</td><td>障がい者の人権</td></tr><tr><td>10月1日</td><td>元愛媛県男女共同参画センター館長 越智やよい氏</td><td>女性の人権</td></tr><tr><td>10月8日</td><td>愛媛県人権対策課人権啓発指導員 西原司氏</td><td>インターネットと人権</td></tr><tr><td>10月22日</td><td>元砥部中学校校長 柿本久氏</td><td>子どもの人権</td></tr></table>							日 時	講 師	演 題	9月3日	石井公民館館長補佐 木下敬幸氏	高齢者の生きがい	9月10日	県人権教育協議会会長代行 米田孝弘氏	「部落差別解消推進法」の具現化を目指して	9月17日	松山市ボランティア活動体験学習研究会 代表 和田佳子氏	障がい者の人権	10月1日	元愛媛県男女共同参画センター館長 越智やよい氏	女性の人権	10月8日	愛媛県人権対策課人権啓発指導員 西原司氏	インターネットと人権	10月22日	元砥部中学校校長 柿本久氏	子どもの人権
	日 時	講 師	演 題																									
	9月3日	石井公民館館長補佐 木下敬幸氏	高齢者の生きがい																									
	9月10日	県人権教育協議会会長代行 米田孝弘氏	「部落差別解消推進法」の具現化を目指して																									
	9月17日	松山市ボランティア活動体験学習研究会 代表 和田佳子氏	障がい者の人権																									
	10月1日	元愛媛県男女共同参画センター館長 越智やよい氏	女性の人権																									
	10月8日	愛媛県人権対策課人権啓発指導員 西原司氏	インターネットと人権																									
	10月22日	元砥部中学校校長 柿本久氏	子どもの人権																									
	■ 人権教育巡回学習会：11月～3月に集会所などで行政区のグループ学習会を開催 3地区、59人参加（前年11地区、121人参加）																											
■ 広報とべ（年6回）、人権カレンダーによる人権啓発																												
2 人権対策活動 生活、体調、教育および就労などの地域住民が抱える相談を広域隣保活動相談員が指導、助言及び関係機関への連絡調整を行った。 ■ 相談件数【電話・来庁・訪問】195件（前年155件）																												
3 人権関係研修会等への参加 様々な人権に関わる研修や研究大会への参加等、学習の機会を提供した。 ■ 研究大会等																												
<table><tr><td>大会名</td><td>開催地</td><td>参加者数</td></tr><tr><td>愛媛県人権・同和教育研究大会</td><td>松山市</td><td>31人</td></tr><tr><td>四国地区人権教育研究大会県内報告会</td><td>砥部町</td><td>11人</td></tr></table>							大会名	開催地	参加者数	愛媛県人権・同和教育研究大会	松山市	31人	四国地区人権教育研究大会県内報告会	砥部町	11人													
大会名	開催地	参加者数																										
愛媛県人権・同和教育研究大会	松山市	31人																										
四国地区人権教育研究大会県内報告会	砥部町	11人																										
■ その他 人権啓発土曜講座（年6回）など																												
事業評価	人権教育基礎講座は、前年度より参加者が24人増加した。 人権教育巡回学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない地区があったが、実施した地区では、地域住民が身近に起こりうる人権問題についての学習や意見交換を行うことができた。新型コロナウイルス感染症拡大で制限を受ける中、感染対策を行い開催することで概ね目標とする成果であった。																											
課題	・参加者の固定化、多様な世代への学習の提供 ・「部落差別解消推進法」の具現化を目指し、地域の実情に応じた相談体制の強化、更なる教育及び啓発活動					評価	B																					
						方向性	維持																					

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。				
主要施策	男女共同参画の推進				
事業No.	30	事業名	女性団体育成支援事業	決算額	0円
事業目的	研修会への参加、各種団体の交流を通して、社会参画に対する意識向上や団体の問題解決を図る。				
事業概要及び成果	女性活躍の推進を図るため、町内で主に女性が中心となって活動している団体及び団体の女性専門部で組織する砥部町女性団体連絡協議会に対し、問題解決に向けた研修の場を提供する等、側面から支援を行う。 ■ 所属団体 ・砥部町商工会女性部 ・母子寡婦福祉協議会 ・交番レディース連絡協議会 ・砥部日赤奉仕団 ・更生保護女性会 ・老人クラブ女性部 ・砥部町食生活改善推進協議会 ■ 主な活動 ・県男女共同参画研修 3人 ■ その他研修会への参加 ・一日食品衛生監視員事業 19人 【新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった参加予定事業】 ・えひめ婦人大会 ・中予地域婦人教育研修会 ・社会を明るくする運動 ・地域女性リーダー育成講座 ・人権の町づくり集会 ・講演会 ・料理教室 ・視察研修				
事業評価	町内7団体で組織する連絡協議会の活動がこう着し、協議会としての意義が薄れている現状がある。そのような中で、新型コロナウイルス感染症拡大により支援活動ができなかったため、目標とする成果を大きく下回った。				
課題	・女性団体の活性化を促すため、多様な学習機会の提供 ・住民を対象としたフォーラム等の開催			評価	C
				方向性	拡大

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。			
主要施策	文化財保護と継承			

事業No.	31	事業名	文化財保護事業	決算額	1,631,361円
-------	----	-----	---------	-----	------------

事業目的	文化財保護意識の啓発に努めるとともに、指定文化財や候補物件の調査研究を行い、必要に応じて指定を行う。				
------	--	--	--	--	--

事業概要及び成果

1文化財保護審議会

町内にある文化財の保存と活用を図るため、文化財保護審議会委員10人が指定文化財の現地調査等を行った。

2町指定無形文化財（砥部焼）の保持者認定

砥部焼の技術を有する3人について、文化財保護審議会に諮問し適当である旨の答申を得て、認定を行った。

区 分	氏 名	内 容
町指定無形文化財（工芸技術：砥部焼）	西 岡 秀 典	砥部淡黄磁の復興再現に取り組む先駆けとなった。愛媛陶芸協会の事務局や砥部焼陶芸塾の講師を務めるなど、後進の育成にも貢献している。
	二 宮 好 史	釉象嵌という技法により、立体感のある繊細な絵付けを施している。砥部焼協同組合理事長を務め、砥部焼業界の発展にも貢献している。
	白 石 久 美	砥部焼伝統の染付にイッチンを併用し、染付模様を立体化することにより、砥部焼の世界を広げた。女性陶芸家のリーダーの一人として活躍している。

3文化財保存顕彰事業費補助金（2件）

町指定文化財の所有者、管理団体、保存団体が行う文化財保存顕彰事業に要する経費に対し、補助金を交付した。

■薬師堂（高市区）改修工事費 924,000円

■麻生の棕の木（麻生区）支障枝伐採事業費 35,000円

4町指定文化財説明看板等修繕工事

文化財の活用のための文化財説明看板（6枚）の劣化や施設等の故障のため、修繕を行った。また老朽化により設置していることが危険となった民話の里ひろた物語音声案内装置の移設を行った。

事業評価

町指定無形文化財（砥部焼）の技術を保護するため、3人の認定保持者を町指定文化財の保持者として認定した。また、補助金交付や設備の修繕等の実施など、当初予定していた事業が予定どおり完了し、概ね目標とする成果であった。

課題	・現在の砥部焼につながる窯跡遺跡の調査研究 ・現状に対応した埋蔵文化財包蔵地の見直し	評価	B
		方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係	
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。					
主要施策	文化財の活用					
事業No.	32	事業名	文化財の活用	決算額	199,120円	
事業目的	砥部の文化や歴史を学ぶとともに町文化の魅力を広く伝える。					
事業概要及び成果	1 歴史講座の開催 砥部の文化や歴史を学んでもらうため、中央公民館講座室で町民を対象とした歴史講座を開催した。					
	開催日	参加者数	講 師	タイトル		
	10月3日	14人	町社会教育課 学芸員 宮本 直美	砥部町の古文書を読む		
	11月14日	31人	町文化財保護審議会 委員 太田 由美子	島の大工の置き土産		
	12月12日	14人	県歴史文化博物館 専門学芸員 大本 敬久	災害の歴史に学ぶ		
	■ 講師謝礼・旅費 13,042円					
	2 町文化財めぐり 町の歴史や文化に触れながら、町の魅力を再発見してもらうため、文化財保護審議会委員による説明を交え、砥部焼に関する文化財めぐりを実施した。 参加者：11人 場所：砥部焼伝統産業会館、梅山大登り窯（砥部焼 梅山窯）、砥石山					
	3 井上正夫資料展示（町文化会館） 年間を通じて、町の名優井上正夫の資料収集・整理や文化会館資料室で収蔵品展示(展示替え2回)を行った。 ■ 消耗品費 22,618円 ■ 所蔵レコードデジタル化手数料152,460円（CD11枚） ■ 展示替用レーザー墨出器修繕費 11,000円					
	事業評価	住民に町や砥部焼の歴史を学び親しんでもらうため、古文書や建築、災害史をテーマとした歴史講座や砥部焼に関する文化財めぐりの開催など、多様な事業を展開した。また、井上正夫のレコード資料のデジタル化を行い、資料保存を進めたことから概ね目標とする成果であった。				
	課題	・参加者のターゲットを絞った魅力ある講座の開催 ・井上正夫資料室を充実させるための資料の収集及び魅力的な展示企画			評価	B
方向性					拡大	

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。			
主要施策	文化財の活用			

事業No.	33	事業名	坂村真民記念館	決算額	30,555,531円
-------	----	-----	---------	-----	-------------

事業目的	坂村真民氏の業績を永く後世に伝えとともに、真民詩への親しみと理解を深め、砥部町の文化として定着させることにより、活力のある地域を形成、活性化を図る。				
------	--	--	--	--	--

事業概要及び成果

1企画展（特別展）

タイトル	内 容	期 間	入館者数
鎌倉・円覚寺黄梅院の掲示板の詩※8周年記念特別展	円覚寺の横田南嶺老師が黄梅院の掲示板に掲示していた「禅の教え」「人間としての生き方」などを詠んだ真民詩を展示	令和2年2月22日～ 令和2年8月23日	2,034人
坂村真民のまなざし	真民詩の中から「坂村真民のまなざし」が分かる詩を中心に選び展示・解説	令和2年8月29日～ 令和3年2月14日	1,650人
海野阿育と坂村真民の世界 ※9周年記念特別展	坂村真民の詩を独自の絵の世界を表現してきた海野阿育さんの版画を一堂に集め展示	令和3年2月20日～ 令和3年8月29日	563人

2入館者数

年度	有料	無料	計
2年度	2,239人	1,260人	3,499人
元年度	4,401人	1,779人	6,180人

事業評価

新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館等の対策を余儀なくされる中、入館者数は大きく減少したが、予定どおり企画展（特別展）を開催することができたため、概ね目標とする成果であった。

課題

・ 真民ファンの高齢化に伴う若年層の獲得

・ 児童・生徒等若年層への真民詩の普及

評価

B

方向性

改善

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。			
主要施策	地域伝統文化の継承			

事業No.	34	事業名	伝統芸能保存伝承事業	決算額	6,041円
-------	----	-----	------------	-----	--------

事業目的	伝統芸能の保存団体等が行う保存伝承活動を支援する。				
------	---------------------------	--	--	--	--

事業概要及び成果	地域において、伝統芸能の保存団体等が行う保存伝承活動に対し、補助金を交付した。				
	1 北川毛伝統芸能保存会				
	■ 補助金額 6,041円				
	■ 活動内容 北川毛集会所での獅子舞披露				
	総津獅子舞、満穂万歳、岩谷口獅子舞は、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止した。				
	2 伝統芸能				
		名 称	地区名		
	1	岩 谷 口 獅 子 舞	岩谷口		
	2	総 津 獅 子 舞	総 津		
	3	北 川 毛 伝 統 芸 能	北川毛		

事業評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、伝統芸能活動を行わなかった団体が多くあった。当初、支援を予定していた4団体のうち1団体しか支援ができなかったため、目標とする成果を大きく下回った。				
------	--	--	--	--	--

課題	・ 町内の伝統芸能の実態把握 ・ 活動団体の高齢化や後継者不足により活動を休止している地域の伝統芸能の記録保存			評価	C
				方向性	改善

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。			
主要施策	文化・芸術活動への参加促進			

事業No.	35	事業名	文化行政推進事業	決算額	36,120円
-------	----	-----	----------	-----	---------

事業目的	本町における文化の向上発展のため、功績著しい個人等を顕彰し、様々な文化振興事業を展開する。				
------	---	--	--	--	--

事業概要及び成果

文化功労賞表彰 文化功労賞推薦委員会で審議・選考を行い、1人を表彰した。

■ 表彰者 太田修嗣氏

※木工ろくろ、指物（さしもの）、刳物（くりもの）、漆塗りの一貫制作による木漆（もくしつ）工房を開いたのち、日本クラフト展や朝日現代クラフト展で入選。全国各地で個展を開催され、砥部の魅力を伝え続けるなど、業界発展への貢献はもちろん、町の生活文化と芸術文化の発展に寄与。

(参考)

年度	功労者	区 分	内 容
元年度	白石久美氏	砥部焼	イッチンという染付模様を立体化する技法を用い染付の世界を拓けるなど業界の発展に貢献
	鎌田美智子氏	芸術文化	絵画教室を長年続け、級長などを歴任し、教室のリーダー的存在として活躍
	久保野知氏	伝統文化	吟詠の指導者や大会の審査員を務めるなど、県内外での活動を通じて地域文化の普及・振興に寄与

事業評価	本町の文化の向上や発展に特に著しい功績のあった者に毎年度顕彰しているが、今年度も推薦を受けて文化功労賞表彰をすることができたため、概ね目標とする成果であった。				
------	---	--	--	--	--

課題	・潜在候補者の調査及び客観的な表彰基準の作成			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	公民館係
目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。			
主要施策	文化・芸術活動を通じた交流の推進			

事業No.	36	事業名	芸能発表会等	決算額	979,501円
事業目的	公民館の教室生や町内の各種団体が発表会を行い、団体の連携や交流を図る。また、これらの芸術文化活動に接する機会を地域住民へ提供し、保存・継承の気運を高め、ふるさとを愛する心を育む。				
事業概要及び成果	1 芸術文化フェスタ ■ 吟詠大会 開催日：11月8日 参加者：約100人、来場者：約150人 ■ みなくる芸能発表会 開催日：11月21日～22日 参加者：約300人、来場者：約420人 内 容：とべっ子文化の広場教室生等による芸能発表会(一般参加者を含む) 大正琴、オカリナ、獅子舞、箏曲、尺八、和太鼓、ダンス、太極拳、歌謡、体操、民謡 (一般参加：ピアノ、歌謡、ギター、民話劇) ■ 展示部門 開催日：11月21日～22日 展示数：約570点、来場者：約1,250人 町長賞7点、議長賞7点、教育長賞7点、文化協会長賞6点、アイデア賞2点、アットホーム賞1点、陶街道特別賞1点、奨励賞31点 ■ 囲碁・将棋大会 開催日：11月7日～8日 参加者：26人				
事業評価	芸術文化フェスタでは、みなくる芸能発表会や作品展示等において、とべっ子文化の広場教室生を中心として、日頃の練習や教室で学んだ成果を披露する場を提供した。また、各種芸術文化団体の発表や作品展示を通して、地域住民へ芸術文化活動に接する機会を提供することができたため、概ね目標とする成果であった。				
課題	・来場者の大半が教室等の関係者で占めているため、魅力の向上を図り多くの住民に興味をもってもらえる企画及び広報			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。			
主要施策	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進			

事業No.	37	事業名	社会体育推進事業	決算額	1,931,660円
-------	----	-----	----------	-----	------------

事業目的	住民の生涯スポーツへの意識が高揚し、スポーツ活動の定着を図る。				
------	---------------------------------	--	--	--	--

事業概要及び成果	町内各種スポーツ大会等を、砥部町スポーツ協会に委託し開催した。				
	■ 町内各種スポーツ大会参加者数				
	大会名	開催日	2年度		元年度
	ソフトテニス大会	5月17日	中止		16チーム 142人
	バレーボール大会	6月14日	中止		28チーム 391人
	卓球大会	6月28日	中止		24チーム 184人
	軟式野球大会	7月19日	21チーム	394人	19チーム 408人
	ソフトボール大会	8月30日	32チーム	527人	31チーム 531人
	レクバレー大会	9月13日	中止		29チーム 245人
	※バドミントン大会	10月18日	33チーム	251人	40チーム 316人
事業概要及び成果	インディアカ大会	11月15日	中止		16チーム 89人
	テニス大会	12月6日	18チーム	132人	18チーム 154人
	計		104チーム	1,304人	221チーム 2,460人
	※バドミントン大会は団体のみを実施し、規模を縮小して実施した。				
	■ 町スポーツ少年大会参加者数				
	大会名	開催日	2年度		元年度
	※ミニバス大会	8月22日	4チーム	47人	12チーム 250人
	ソフトボール大会	11月28日	2チーム	23人	3チーム 40人
	計		6チーム	70人	15チーム 290人
	※ミニバス大会は規模を縮小して実施した。				

事業評価	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により5大会を中止する事となったが、延べ1,374人の参加があった。コロナ禍においても感染対策を実施し住民の相互交流の機会を提供することができたため、概ね目標とする成果であった。				
------	--	--	--	--	--

課題	・町スポーツ少年大会の種目を見直し魅力ある大会として定着させる。 ・多くの世代が参加できるよう、大会種目や競技方法の見直し			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。			
主要施策	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進			

事業No.	38	事業名	体育施設管理	決算額	13,384,806円
事業目的	日常のスポーツ活動が快適に展開できるように、スポーツ施設の管理を行う。				
事業概要及び成果	1 社会体育施設の利用状況		2 陶街道ゆとり公園及び田ノ浦町民広場の利用状況		
	(単位：人、日)		(単位：人、日)		
	施設名	利用者数	利用日数	施設名	利用者数
	砥部中学校 グラウンド	2,447	56	多目的広場	12,315
	体育館	6,380	261	テニスコート	19,001
	武道場	5,760	282	わんぱく広場	21,777
	砥部小学校 グラウンド	3,763	199	体育館	46,908
	体育館	5,778	193	グラウンドゴルフ場	2,763
	宮内小学校 グラウンド	5,470	204	武道場	10,627
	体育館	14,172	273	田ノ浦町民広場	3,846
	麻生小学校 グラウンド	4,320	194		
	体育館	8,149	241	社会体育施設及び学校施設の運動場及び体育館は、年間70,066人の利用があり、対前年35,886人減少した。指定管理施設は、年間117,237人の利用があり、対前年27,205人減少した。新型コロナウイルス感染症の影響によりいずれも利用者減となった。	
	大南町民広場	9,775	241		
	ひろた町民グラウンド	2,146	81		
	広田小学校 体育館	1,300	34		
	玉谷町民体育館	446	61		
	高市町民体育館	160	3		
	岩谷口プール	中止	中止		
	主な修繕工事 ■ 陶街道ゆとり公園あすなろ山複合遊具塗装等修繕工事 3,520,000円 ■ 陶街道ゆとり公園体育館LED照明修繕工事（5台） 990,000円				
事業評価	修繕等適正な維持管理により利用者の安全確保や利便性の向上に努め、住民に安定的かつ継続的に利用してもらえており、概ね目標とする成果であった。				
課題	・施設が老朽化しているため、点検と適切な修繕による施設の長寿命化 ・グラウンド夜間照明の計画的な更新			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

		所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。				
主要施策	地域における指導者の確保及び育成				
事業No.	39	事業名	スポーツ指導者確保及び育成	決算額	1,851,618円
事業目的	スポーツの推進を図るため、住民に対するスポーツの指導及び助言を行う。				
事業概要及び成果	1 町スポーツ推進委員 スポーツの実技指導やスポーツ活動の企画・推進等を目的にスポーツ推進委員を委嘱し、町体育事業への協力や、新しいスポーツ種目の検討、スポーツの指導等を行うための研修を行った。 ■ 町スポーツ推進委員 12人 ■ スポーツ推進委員会 1回 ■ スポーツまつりinとべ 運営協力 ■ 青少年健全育成推進中予大会参加（11月25日）				
	2 町スポーツ協会（町委託事業） 町大会をスポーツ協会へ委託し、運営等を協会の専門部会など地域の力に任せ実施することで、スポーツ事業の企画・運営等を行う地域スポーツの担い手の確保・育成に努めた。 ■ 町スポーツ協会運営大会 5大会 ※5大会が感染症の影響で中止				
事業概要及び成果	3 スポーツ少年団等育成支援 少年スポーツ少年団等の活動を支援するため補助を行い、次世代のスポーツ推進の担い手の育成に努めた。 ■ スポーツ少年団等育成事業費補助金 750,000円 ■ スポーツ少年団陶街道ゆとり公園武道場利用補助金 409,000円 ※町スポーツ少年団等 15団体				
事業評価	新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツ機会自体が減少したものの、実施した大会やスポーツ少年団等の活動の中で、町スポーツ協会と協力して、スポーツ指導者や次代の担い手育成を行い、概ね目標とする成果であった。				
課題	・町スポーツ協会と連携したニュースポーツの普及 ・地域単位でのスポーツ活動の活性化及び地域スポーツの担い手の発掘			評価	B
				方向性	維持

教育委員会における事務の管理・執行状況 ー事業別評価表ー

	所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係
目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。			
主要施策	スポーツを通じた交流の拡大			

事業No.	40	事業名	スポーツ・レクリエーション推進事業	決算額	221,223円
-------	----	-----	-------------------	-----	----------

事業目的	住民一人ひとりが自分に合ったスポーツ・レクリエーション活動に参加し、住民同士の交流を深める機会を提供する。				
------	---	--	--	--	--

事業概要及び成果

1スポーツ大会等の開催

大会名	開催日	事業費	2年度参加者		元年度参加者	
クロッケー大会	6月7日	5,767円	中止		27チーム	97人
スポーツまつりinとべ	10月11日	215,456円				
綱引き			20チーム	216人	21チーム	258人
ペタンク			39チーム	117人	39チーム	117人
グラウンドゴルフ			15チーム	90人	14チーム	78人
スポーツウエルネス吹矢			9チーム	28人	8チーム	32人
ジュニア駅伝大会	1月23日	—	中止			
駅伝の部					48チーム	240人
マラソンの部					—	130人
ウォークラリー大会	2月28日	—	中止		16チーム	69人
計			83チーム	451人	173チーム	1,021人

事業評価

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により3大会を中止したが、実施した大会は、451人の参加があった。コロナ禍においても感染対策を実施し住民の相互交流の機会を提供することができたため、概ね目標とする成果であった。

課題

・年々、参加チームが減少しているため、より多くの住民参加を促すための種目や実施方法の見直し

評価	B
方向性	維持

令和3年度【令和2年度事業】砥部町教育委員会点検評価報告書

－外部評価意見－

令和3年8月13日

評価者：金井 宏之

◆未来を担う子どもたちが、たくましく健やかに育まれるまちを実現します。

主要施策	子どもを産み育てやすい環境整備
------	-----------------

【意見】

- 就学援助事業・・・入学説明会等で全保護者に説明を行い、事業の周知徹底を図るなど、年々充実してきている。特に令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により新たな補助制度を設け、保護者への負担軽減がさらに図られた。課題にもあるように、真に援助を必要としている家庭に適正に援助することが大切であり、周知活動の方法など再考しながら展開していく必要がある。近年、就学援助の支給対象者は増加傾向にあり、今後も予算確保に努めていただきたい。
- 教育活動支援事業・・・小学校が郊外で実施する集団宿泊活動に要する経費や、中学校の部活動における選手派遣に要する経費が十分に助成されており、児童・生徒が参加しやすい環境への支援と保護者への経済的負担の軽減が図られている。今後も予算確保に努めていただきたい。
- 奨学資金貸与事業・・・経済的理由によって就学困難な学生・生徒にとってかけがえのない事業である。昨年度は、申請者全員が取得でき就学の機会が確保できている。例年希望者があることから、ぜひ継続していただきたい。
- 幼児教育推進事業・・・幼稚園教育は、豊かな心の育成、健康でたくましい体づくり、考える力の育成をめざし努力していくことが目標である。町内の幼稚園は、新型コロナウイルス感染症拡大により活動が制限される中、コロナ対策を図りながら、園児の成長のために指導の工夫や環境づくりがなされている。入園児数の減少傾向を防ぐためには、保育所では味わえない取り組み、例えば、幼児期にふさわしい環境づくりや生きる力の基礎を培う保育の在り方などについての話し合いや地域への啓発活動を行っていただきたい。

主要施策	子どもの健やかな成長支援の充実
------	-----------------

【意見】

- 保健対策事業・・・児童・生徒及び教職員が、心身ともに健康で安全な学校生活を送るためには、

病気等の早期発見や予防に努めることが大切である。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、児童・生徒の健康安全に努めていることが伺える。また、教職員については、健康診断やストレスチェックの実施、個別の保健指導や病院での受診体制が整っていることはありがたい。学校生活がより活性化していくためにも、ぜひ継続していただきたい。

○特別支援教育推進事業・・・特別支援学級への入級などの教育相談者数は、年々増加傾向にあるとともに、特別な教育的支援を必要とする幼児及び児童・生徒の数は、増加傾向にある。今後も、教育支援委員会、巡回相談、特別支援連携協議会の活動の充実、各学校・園の校内体制の活性化をさらに図っていただきたい。学校生活支援員の適切な配置により、支援を要する子どもたちへのサポートが充実し、保護者の不安解消や教職員の負担軽減に大いにつながっている。今後も、適切な人材確保に努めていただきたい。

○運動・体力向上推進委員会・・・小学校水泳大会（令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止）や陸上競技大会は、児童にとって健康や体力の向上、強い心の育成などに効果があり、教職員にとっては指導力の向上に大きな役割を果たしているため、ぜひ次年度も実施していただきたい。中学校については、運動部活動の方針を定め、休養日を設定するなど生徒の心身の負担軽減やけがの防止、教職員の長時間労働の抑制を図ることができたことの意義はとても大きい。

○地域の特性を生かす教育推進事業・・・砥部町は自然や文化などが豊かな町である。ふるさと砥部の良さを再認識し、ふるさとを愛し、誇りに思う児童・生徒を育成するためには、それぞれの地域の特性をもった教育を推進していかなければならない。授業時数の増加で時間確保が困難ではあるが、今後も助成金の交付を継続していただきたい。

主要施策	生きる力を育む教育の推進
------	--------------

【意見】

○キャリア教育推進事業・・・砥部中学校では一昨年度より「えひめジョブチャレンジU-15 事業」を、中学2年生を対象に実施し、望ましい勤労観や職業観を育成するとともに、生徒にとって地元で働く魅力をより強く感じたことと思われる。コロナ禍の影響で実施困難な中、実施日数や協力事業所が例年に比べ減少したが、キャリア教育の推進が叫ばれている今日、今後は直接現場に出向いての職場体験学習が実施できるよう進めていただきたい。

○学校給食運営事業・・・園児、児童、生徒に対し、栄養豊かな給食を提供することができている。また、専門業者による施設の定期点検や食物アレルギーへの対応が行われ、安全・安心な給食の提供ができている。人員不足で大変ではあるが、子どもたちや保護者のために、職員や調理員が協力し合って頑張りたい。

主要施策	教育力の向上
------	--------

【意見】

- 校務支援・業務改善事業・・・教職員の校務環境の改善や指導力改善のためのE S ネットの活用、教職員の負担軽減につながるスクール・サポート・スタッフの配置等、教職員の勤務時間に対する意識改革の一助となっていると思われる。
- 教職員研修事業・・・コロナ禍の影響で、予定していた研修がやむなく中止され残念ではあるが、教職員の指導力の向上等を図る上で欠かすことはできない。課題にもあるように、オンライン研修や対面研修で積極的に実施していただきたい。
- 学力向上推進事業・・・コロナ禍の影響で、学力診断テストや学力向上推進委員会の実施ができなかったことは残念である。しかし、保護者への家庭学習に関するパンフレットの配布や児童・生徒に家庭学習用のプリントの配布をするなど、学力の維持に努め成果を上げている。令和3年度においては、学力向上推進のため、より積極的に研究を進めていただきたい。
- 情報教育推進事業・・・GIGA スクール構想の実現に向け、小・中学校にタブレット端末が整備されたことは、子どもたちにとって情報活用能力の向上や学習意欲の向上に役立つと考える。今後、タブレットを使った学習形態や活用技術の向上に向けての職員研修を早急に進めていただきたい。
- 外国語教育推進事業・・・小学校での英語の教科化に伴い、児童が生きた英語に接する機会や外国語活動・英語教育を充実させるため、外国語指導助手を1名増やしたことは教員の負担感の解消にもつながっていると考える。また、中学生英語検定料の助成により、英語検定にチャレンジする生徒の増加が望まれる。
- いじめ・不登校等対策事業・・・いじめや不登校などの問題を抱える児童・生徒の不安の軽減や問題の早期発見・未然防止のため、ハートなんでも相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置により多くの成果が上がっている。児童・生徒の健全育成を図っていくためにも、ハートなんでも相談員等の配置を継続していただきたい。
- 山村留学センター運営事業・・・決まった期間を親元から離れて山村で集団生活を行い、その地域にある学校に通うこの制度は、1992年に開設されて29年と長い歴史をもつ。豊かな自然の中で、さまざまな自然体験や農業体験をすることによって子どもの生きる力を育むことができる事業である。令和2年度はコロナ禍の影響で活動が制限されたものの、運営方法の見直しや新規事業への取り組みなど成果を上げている。施設の老朽化への対応や保護者や地域との信頼関係づくり等の課題がみられるが、本事業をぜひ継続していただきたい。

○学校間連携推進事業・・・校長がリーダーシップを発揮し、学校の教育力を図るために、町内の校長と教育委員会や中予教育事務所との連携のための校長会は不可欠である。共同学校事務室の運営については、学校事務処理の平準化や効率化に大きな成果がみられる。

主要施策	安全・安心の充実した教育環境の整備
------	-------------------

【意見】

○学校施設整備・維持管理(事業 No.20・21 を含む)・・・町内の全小学校に空調整備工事や麻生小学校の校舎等大規模改修工事が完了し、子どもたちや教職員にとってより快適な学習環境で活動を行うことができるようになった。砥部町の積極的な対応に感謝したい。今後もまだ残っている課題について、より安全で快適な環境整備に努めていただきたい。

○学校安全対策事業・・・3つの対策事業の実施はコロナ禍の影響で制限された事業もあるが、通学路の安全対策事業や防犯対策事業が適切に実施されており、子どもたちの安全確保が図られている。また、防災士を養成し災害時における学校防災力の強化も図られ、今後もぜひ継続していただきたい。

○新型コロナウイルス感染症対策・・・感染拡大を防止するため、各校に消毒液、フェイスシールド、非接触体温計などの配布と学校の積極的な活用で大いに成果を上げている。未だに終息しない新型コロナウイルス感染症を、今後も学校、家庭、教育委員会が常に連携し、子どもたちが安心して学校生活が送れるよう努力を続けていただきたい。

◆身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。

主要施策	ニーズに合わせた学習機会の充実
------	-----------------

【意見】

○社会教育推進事業・・・「国際交流サマースクール」は、町内外の小学生や世界各国の留学生たちが、自然の中での触れ合いや様々な体験を通して、互いの言葉や文化のよさを理解するとともに、新しい自分の発見や留学生との友情が深まる貴重な場となっている。「ショパンビレッジフェスティバル in 砥部町」は、コロナ禍の影響でオンライン開催となったが、音楽に触れることで豊かな情操や感性が養われ、町民が普段聴くことの難しい一流音楽に親しむことができる事業である。今後は、ピアノだけでなく、他の楽器の演奏や様々な音楽に親しむことのできる内容への検討を含め、ぜひ継続していただきたい。「子ども読書活動推進計画」は、読書離れが進む中、読書を楽しみ、読書をする習慣を身に付けるための良い事業である。

○公民館活動事業・・・地域住民の意見を反映した様々な遊びの場や学びの場が提供できている。

参加者の固定化や高齢化が課題となっているが、住民のニーズを的確に把握しながら事業改善を行い、活性化を図っていただきたい。

主要施策	活動の場づくりと担い手の充実
------	----------------

【意見】

○文化会館・図書館管理運営・・・文化会館は、コロナ禍の影響で一時休館があり、利用者数が減少したが、適正な管理運営や計画的な修繕がなされている。今後も、利用者が安心して快適に利用できる施設として継続していただきたい。図書館は、一時閉館により利用者や貸し出し冊数が減少しているが、読書活動が気軽にできる身近な施設である。「おはなし会」など、7つの事業は子どもたちの読書意欲を高めている。新しく始めた読書記録帳を活用した読書活動の充実を含め、事業を継続していただきたい。

○公民館施設管理・・・3つの施設ともに、充実した公民館運営に努め、利用者により安全で快適な環境を提供できている。千里地区公民館の利用者がやや少ないのは残念であるが、今後も安全で利便性のある施設を目指し頑張りたい。

○青少年育成事業・・・登校指導や街頭補導などの「青少年育成センター」の活動は、子どもたちの健全育成や非行防止に大きく貢献できている。今後も関係諸機関が連携を密にし、活動を継続していただきたい。ボランティア事業である「とべっ子志縁倶楽部」は、町内の小中学校の放課後学習支援や登下校見守り活動など、児童・生徒の学力向上や安全確保に貢献している。スタッフの高齢化もあり若年者の募集を含め、今後もぜひ事業を継続していただきたい。

主要施策	互いの人権を尊重する社会の構築
------	-----------------

【意見】

○人権教育・人権対策推進事業・・・人権教育については、砥部町民一人ひとりの人権意識の高揚を図り、様々な人権問題の解消のため、人権に関する研修会や講座の実施、紙面等を利用した人権啓発活動を継続して実施することが大切である。令和2年度はコロナ禍の影響で、人権の町づくり集会の中止や人権教育巡回学習会が実施できなかった地区があったが、今後も、町民一人ひとりが気軽に参加できるようさらに広く周知し、参加者の拡充に努めていただきたい。人権対策活動では、県人権対策協議会砥部支部の人権に関わる研修会への積極的な参加や相談活動の実施など、差別解消に向けた活動が展開できている。

主要施策	男女共同参画の推進
------	-----------

【意見】

○女性団体育成支援事業・・・町内7団体が交流し、社会参画に対する意識向上や団体の問題解決を図るための活動ができている。コロナ禍の影響で、実施や参加予定の事業をやむなく中止せざるを得なくなったが、男女が相互の立場を尊重し、協力し合って活躍できる社会実現のため、今後も引き続き積極的な支援活動をお願いしたい。

主要施策	文化財保護と継承
------	----------

【意見】

○文化財保護事業・・・町内に現存する文化財は、ふるさと砥部の貴重な財産である。町指定無形文化財保持者認定による砥部焼の技術保護、補助金交付や設備の修繕等の実施など、文化財保護に努められている。これまで以上に、調査研究や文化財保護に努めていただきたい。

主要施策	文化財の活用
------	--------

【意見】

○文化財の活用・・・学芸員を中心に企画している歴史講座の開催や町文化財めぐりを通して、砥部町の文化や歴史を学ぶことができる事業である。今後も開催していただきたい。名優「井上正夫」については、絵手紙コンクールや学芸員の講演など、井上正夫を学ぶ機会が与えられ今後も継続していただきたい。町文化会館にある井上正夫資料室の利用者の増加に向け、より魅力ある展示室を目指していただきたい。

○坂村真民記念館・・・毎年工夫した特別展や企画展を定期的で開催したことで、記念館のPRに努める事業となっている。コロナ禍の影響で入館者数が減少したが、今後も真民氏の業績を永く後世に伝えるため、魅力ある記念館づくりやより一層の広報活動を進めていただきたい。

主要施策	地域伝統文化の継承
------	-----------

【意見】

○伝統芸能保存伝承事業・・・伝統芸能である獅子舞や万歳などの保存伝統活動を行っている団体への補助金交付は、伝統芸能保存の一助となっている。コロナ禍の影響で、活動を行わな

かった団体もあるが、発表できる場(例えば、砥部小運動会での獅子舞の披露など)の確保や記録保存をすることで、後継者不足の解消や伝統芸能の継承につながっていくものと思われる。

◆文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します

主要施策	文化・芸術活動への参加促進
------	---------------

【意見】

○文化行政推進事業・・・毎年顕彰している「文化功労章表彰」などの事業は、砥部町の文化の向上や発展に大きく貢献できている。

主要施策	文化・芸術活動を通じた交流の推進
------	------------------

【意見】

○芸能発表会等・・・芸術文化フェスタは、日頃の練習の成果を発表できる場であり、砥部町住民が各種の芸術文化に触れることのできる場である。また、各種団体の交流や連携を図ることができるため、ぜひ継続していただきたい。

主要施策	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
------	----------------------

【意見】

○社会体育推進事業・・・町内各種スポーツ大会は、コロナ禍の影響で中止された大会があるものの参加人数は多く、住民の生涯スポーツへの意識の高揚や活動の定着が図られている。今後もより多くの世代の住民が参加できる種目や方法を検討しながら、ぜひ継続していただきたい。

○体育施設管理・・・地域住民が安全に楽しくスポーツ活動ができるように、施設設備の管理運営がなされている。特に、ゆとり公園の修繕工事を含め、点検・修繕が積極的に行われていることは大変ありがたい。

主要施策	地域における指導者の確保及び育成
------	------------------

【意見】

○スポーツ指導者確保及び育成・・・12名のスポーツ推進委員の大会参加者への適切な指導助言

や町スポーツ協会との連携で、砥部町のスポーツの推進に大きく貢献できている。より推進を図るために、指導者の確保・育成は欠かせない。また、スポーツ少年団等の育成支援は次世代の担い手育成に効果があるので、ぜひ続けていただきたい。

主要施策	スポーツを通じた交流の拡大
------	---------------

【意見】

○スポーツ・レクリエーション推進事業・・・コロナ禍の影響で大会数は減少したが、「スポーツまつり in とべ」には、多くの参加者がスポーツ・レクリエーション活動を楽しむことができ、人と人をつなぐ良き交流の場となっている。今後もぜひこの事業を継続していただきたい。